

令和6(2024)年度第1回水工学委員会および幹事会

日時: 令和6年6月5日(水) 13:00から14:30(最大15:30まで)

場所: オンライン (Zoom)

ID: 810 9459 7138, パスコード: 638754

<https://kyoto-u-edu.zoom.us/j/81094597138?pwd=r2MCPub2PSATapLkc1WiULKKierkJF.1>

0. 泉委員長挨拶

《報告事項》

1. 令和6年度水工学委員会構成 (幹事長) 資料1-1, 2
2. 令和6年度の年間スケジュール (幹事長) 資料2
3. 令和6年度水工学に関する夏期研修会 (大阪公立大学, 山口委員 (代理: 幹事長)) 資料3
4. 第28回水シンポジウム2024 in ながの (幹事長) 資料4
5. 部会・小委員会・関連委員会の活動報告及び活動計画
 - ▶部会 : 基礎水理部会 (高橋正委員) 資料5-1
 - 河川部会 (内田委員) 資料5-2
 - 環境水理部会 (赤松委員) 資料5-3
 - 水文部会 (市川委員 (代理: 幹事長)) 資料5-4
 - ▶研究小委員会: グローカル気候変動適応研究小委員会 (小林委員) 資料5-5
 - 河道管理研究小委員会 (戸田委員、時間の都合で先に説明) 資料5-6
 - 水理・水文統計解析研究小委員会 (風間委員) 資料5-7
 - 河川観測技術高度化研究小委員会 (手計委員) 資料5-8
 - ▶関連委員会: 水工学オンライン小委員会 (重枝委員、時間の都合で先に説明) 資料5-9
 - 土木学会論文集編集委員会 (戸田委員)
 - 河川懇談会 (二瓶委員) 資料5-10
 - 水害対策小委員会 (竹林委員) 資料5-11
 - 流域管理と地域計画の連携 (市川委員 (代理: 幹事長))
- 水理公式集編集小委員会, 水理公式集例題集編集小委員会, IAHR Japan Chapter, 環境システム委員会, 減災・防災委員会, 沿岸域気候変動, 地球環境委員会, ISO/TC113小委員会, ISO対応, 出版委員会, 海岸工学委員会, インフラ体力委員会, インフラメンテナンス関係委員会, 土木建築TF
6. 令和5年度水工学委員会の活動評価 (幹事長) 資料6
7. その他

《協議事項》

1. 令和6年度土木学会論文集特集号 (水工学) 査読・編集作業等 (小田編集幹事長) 協議資料1
2. 令和6年度第69回水工学講演会について (富山, 呉委員 (代理: 幹事長)) 協議資料2
3. 令和7年度第70回水工学講演会について (福島, 川越委員・梅田委員) 協議資料3
4. 令和7年度水工学に関する夏期研修会 (九州, 水工学委員会主担当, 矢野委員) 協議資料4
5. 令和7年度水シンポジウム (山梨, 大槻先生)
6. JSCE-CCES Joint Symposium について (矢野委員) 協議資料5
7. 令和6年度の水工学委員会の予算について (幹事長) 協議資料6
8. その他

2023-2024水工学委員会委員（2024/6/5現在）

資料2401-1-1

顧問

中川 一	京大防災研
寶 馨	京大防災研
道奥 康治	法政大学
中北 英一	京大防災研
清水 康行	北海道大学
清水 義彦	群馬大

委員

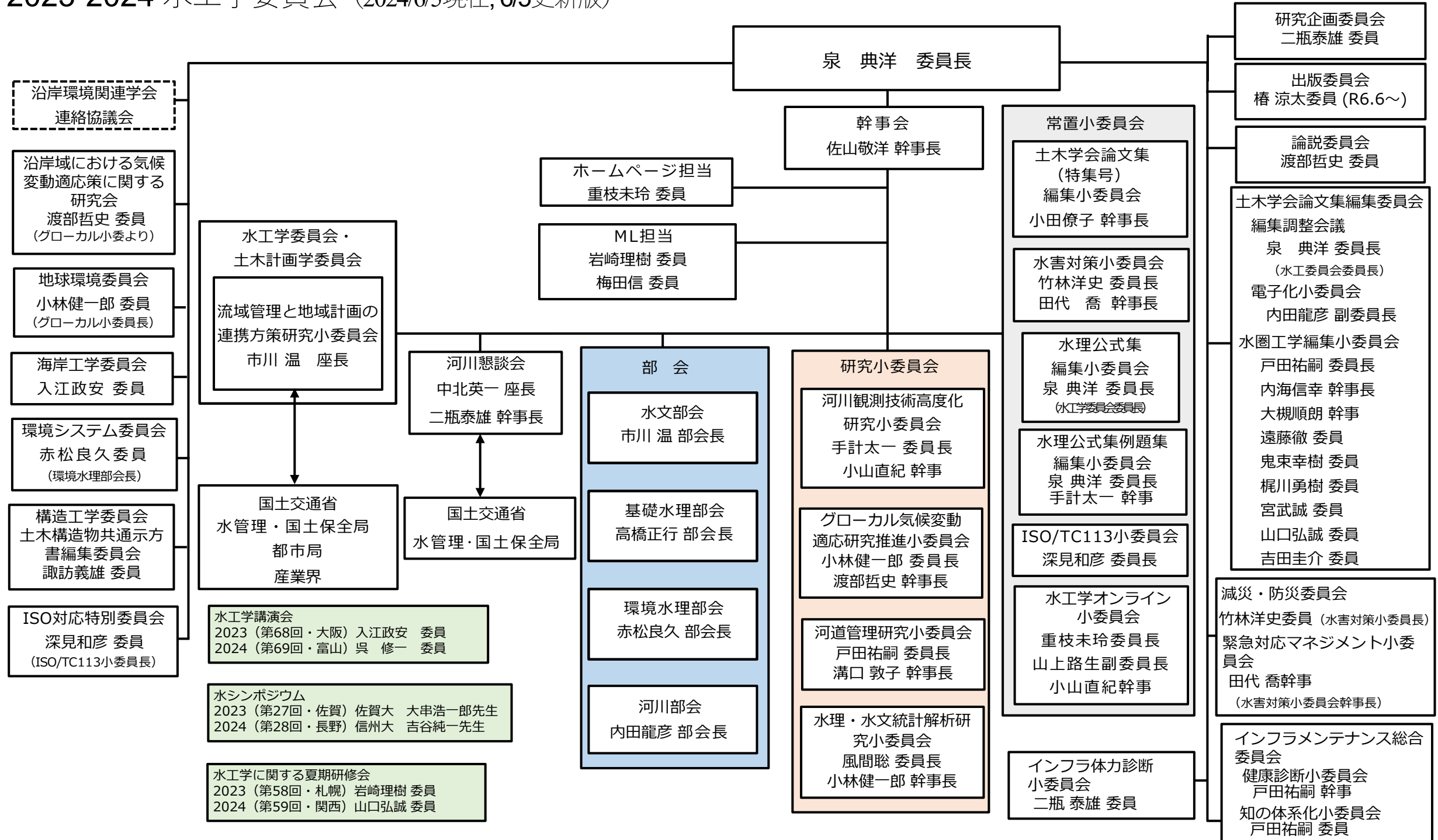
NO.	氏名	所属	役職, 担当	種類	幹事
1	泉 典洋	北大	委員長, 水理公式集例題集編集小委員会委員長	専門1	
2	佐山 敬洋	京大防災研	幹事長	専門2	
3	小田 僚子	千葉工業大	編集幹事長	専門3	
4	矢野 真一郎	九州大	前幹事長, 水シンポ2023佐賀企画部会長	専門4	○
5	溝口 敦子	名城大	前編集幹事長, 河道管理研究小委員会幹事長	専門5	○
6	高橋 正行	日大	基礎水理部会会長	専門6	○
7	椿 涼太	名古屋大	出版委員会委員 (R6. 6から)	専門7	○
8	風間 聡	東北大	水理・水文統計解析研究小委員会委員長	専門8	○
9	入江 政安	大阪大	水工学講演会(大阪大会)担当, 海岸工学委員会交換委員	専門9	
10	竹林 洋史	京大防災研	水害対策小委員会委員長, 日本建築学会「水害・土砂災害等による建築物等の被災調査マニュアル検討WG」委員 (水工学委員会からの選出委員)	専門10	○
11	大石 哲	神戸大		専門11	
12	手計 太一	中央大	河川観測高度化研究小委員会委員長, 水理公式集例題集編集小委員会幹事長	専門12	○
13	森脇 亮	愛媛大		専門13	○
14	中山 恵介	神戸大		専門14	
15	田端 幸輔	国総研		専門15	
16	音田 慎一郎	京都大学		専門16	
17	川村 里実	寒地土木研究所		専門17	
18	山田 朋人	北大		北海道1	
19	岩崎 理樹	北大	水工ML, 2023年度夏期研修会	北海道2	○
20	梅田 信	日本大学工学部	水工ML, 水工学講演会(福島大会)担当	東北1	○
21	川越 清樹	福島大	水工学講演会(福島大会)担当	東北2	
22	二瓶 泰雄	東京理科大	河川懇談会幹事長, インフラ体力診断小委員会幹事, 研究企画委員会委員 (水工学委員会からの選出委員)	関東1	
23	鼎 信次郎	東工大		関東2	
24	田中 規夫	埼玉大		関東3	○
25	宮本 仁志	芝浦工大	出版委員会委員 (R6. 5まで)	関東4	○

NO.	氏名	所属	役職, 担当	種類	幹事
26	芳村 圭	東大		関東5	
27	平林 由希子	芝浦工業大	本部理事	関東6	○
28	小澤 盛生	国交省・河川計画課河川計画調整室長		関東7	
29	瀬崎 智之	国総研		関東8	
30	柿沼 太貴	土木研究所 (ICHARM)		関東9	
31	佐藤 隆宏	電中研		関東10	
32	陰山 健太郎	日本工営		関東11	
33	荒木 千博	建設技術研究所		関東12	
34	渡邊 武志	パンフィックコンサルティング		関東13	
35	中村 要介	三井共同建設コンサルティング		関東14	
36	岡村 誠司	いであ		関東15	
37	戸田 祐嗣	名古屋大	土木学会論文集編集小委員会委員長, 河道管理研究小委員会委員長, 土木学会インフラメンテナンス総合委員会・知の体系化小委員会委員, 健康診断小委員会幹事	中部1	○
38	谷口 健司	金沢大		中部2	
39	武田 誠	中部大	水工学オンライン運営小委員会委員長 (R6. 5まで)	中部3	
40	市川 温	京大	水文部会会長, 流域管理と地域計画連携方策研究小委員会幹事	関西1	○
41	川池 健司	京大防災研	IAHR Japan chapter幹事長	関西2	
42	小林 健一郎	神戸大 (R6. 4より埼玉大学)	グローバル小委員会委員長, 水理・水文統計解析研究小委員会幹事長, 地球環境委員会交流委員(グローバル)	関西3	○
43	田中 賢治	京大防災研		関西4	○
44	山上 路生	京大		関西5	
45	山口 弘誠	京大防災研	2024年度夏期研修会	関西6	
46	赤松 良久	山口大	環境水理部会長	中国1	○
47	内田 龍彦	広島大	河川部会部会長, 土木学会論文集編集委員会電子化小委員会副委員長	中国2	
48	高橋直己	香川高専		四国1	○
49	杉原 裕司	九州大		西部1	
50	重枝 未玲	九工大	HP担当, 水工学オンライン小委員会委員長 (R6. 5から), 水シンポ2023佐賀担当	西部2	○

オブザーバー (定員外)

大槻 順朗	山梨大学	水害対策小委員会幹事長
五十里 洋行	京都大学	海岸工学委員会交流委員
深見 和彦	河川情報センター	ISO/TC118小委員会委員委員長, ISO対応特別委員会委員
呉 修一	富山県立大学	2024年度水工学講演会担当

2023-2024 水工学委員会 (2024/6/5現在, 6/5更新版)



2024 年度スケジュール (R6.6/5 現在)

資料 2401-2

	水工学委員会, 編集小委員会	部会, 小委員会	その他 (共催)
2024 年 4 月			
5 月	5/23 第一回編集小委員会(O) 5/31 土木学会論文集特集号 (水工学) 投稿締切	5/23-25 環境水理部会研究集会 (奄美)	
6 月	6/5 第一回水工学委員会(O) 6/6 第一回編集小委員会幹事会(O) 6/7~10 第二回編集小委員会(M)	6/20-21 河川部会・河川シンポジウム (H)	
7 月	7/16 第三回編集小委員会(M)		
8 月	8/29-30 水工学に関する夏季研修会@ 大阪公立大学杉本キャンパス		
9 月	9/20 第四回編集小委員会(M)	9/2-6 土木学会全国大会 (東北大学)	
10 月	10/31-11/1 水シンポジウム in ながの (執行部+基礎水理部会)		
11 月			
12 月	12/2-4 第 69 回水工学講演会@富山 12/2 第二回水工学委員会 12/3or4 アゲールシンポ (グローバル 小委員会)		
2025 年 1 月			
2 月			
3 月	3/?? 第三回水工学委員会(O)	3/6 基礎水理シンポジウム	
4 月	河川災害シンポ (水害対策小委員会) (H)		
5 月	5/31 水工学論文集締切		

注 : (M)はメール審議, (O)はオンライン開催, (H)はハイブリッド開催.

2025 年度スケジュール

6 月頃 河川シンポ (土木学会講堂・オンライン併用)

8 月頃 夏期研修会 (水工担当 : 九州大学)

10 月頃 水シンポ in やまなし

12 月頃 第 70 回水工学講演会 (福島)

第59回（2024年度）水工学に関する夏期研修会

担当：山口（京大防災研）

開催日時と会場（開催形式）

開催日時： **2024年8月29日（木）、30日（金）** （※土木学会全国大会：9月2（月）～、の前週）

会場： **大阪公立大学杉本キャンパス**

開催形式： 対面のみ

テーマ： 水工学に関するモニタリング技術 ※Aコース6名、Bコース6名、共通2名の講師の先生方から、それぞれ90分ずつの講義

実施担当者

（副） Aコース（河川・水文） 山口（京大防災研、水工学委員会）

（主） Bコース（海岸・港湾） 遠藤（大阪公立大、海岸工学委員会）

参加募集、登録方法

土木学会のサイトで事前申し込みを受け付ける。

ホームページ：水工学委員会の研修会サイト

	日時	Aコース(810教室)	Bコース(811教室)
8月29日（木）	9:00～10:30	大石（神戸大学）	山野（東洋建設）
	10:45～12:15	宮田（京都大学）	辻本（元熊大、阪公大）
	13:15～14:45	共通セッション：二瓶（東京理科大学）	
	15:00～16:30	赤松（山口大学）	比嘉（沿岸環境）
8月30日（金）	9:00～10:30	萬矢（土木研究所）	高畠（近畿大学）
	10:45～12:15	山上（京都大学）	高山（大成建設）
	13:15～14:45	共通セッション：伴野（港湾空港技術研究所）	
	15:00～16:30	中川（長崎大学）	岡田（電力中央研究所）

受講証、CPD登録

従来通りに研修会終了後に会場で修了証を渡し、CPD申請を受け付ける。

修了証およびCPDは事前に申し込んだコースのものを発行する。

今後の主なスケジュール

6月： CPDプログラム申請、申し込みページの作成、周知

8月： 本番

10月： 報告書の作成

第28回水シンポジウム 2024 in ながの 概要書

令和6年5月時点

○メインテーマ

治水 ONE NAGANO

～令和元年東日本台風から5年 未来に向け私たちが学んだこと～

趣旨

- ・長野県において、毎年のように豪雨による災害が発生している中で、特に、甚大な被害となったのが、令和元年東日本台風である。
長野県では、被災直後から早期復旧・復興に全力で取り組むとともに、この災害を契機に、「治水ONE NAGANO」を宣言し、国・県・市町村・民間企業・住民が協働して水害を軽減させる流域治水の取り組みを推進している。
- ・令和6年度は災害発生から5年という節目の年であり、本シンポジウムを通じて、災害からの復旧・復興や流域治水に係る長野県の特徴的な取組などを全国へ発信し、今後の防災・減災について議論したい。

○主催

- ・「第28回水シンポジウム 2024 in ながの」実行委員会

構成団体：公益社団法人土木学会水工学委員会、信州大学工学部

国土交通省北陸地方整備局、長野県、長野市、長野SDGs地域防災プロジェクト

○助成

- ・(公財)河川財団(河川基金)、(一財)防災研究協会、(一社)北陸地域づくり協会

○後援

- ・信州大学地域防災減災センター、長野県河川協会

○開催日時及び会場

・シンポジウム

令和6年10月31日(木)13時から

会場：長野市若里市民文化ホール(収容人数約600人)

・現地見学会

令和6年11月1日(金)終日

想定人数：40人

移動手段：マイクロバス2台

見学場所：長野県北信地域の現場等

○来賓

- ・長野県知事(ビデオメッセージ予定)
- ・長野市長(検討中)
- ・国土交通省北陸地方整備局長(検討中)
- ・信州大学学長(検討中)

○シンポジウム講演予定

講演

- ・松尾一郎教授
『コミュニティ防災の支援ツールとしてのタイムライン
～タイムライン導入 10 年、命を守った事例とこれから～』 (長野の特徴的な取組)
- ・笹本正治 県立歴史館特別館長
『長野県の水害と伝承』 (歴史文化)

事業報告

- ・吉谷純一教授
『土木学会水工学委員会による令和元年千曲川災害調査』 (災害の状況)

事例紹介

- ・SDGs 地域防災プロジェクト (日本無線 (株))
『小学生を対象とする防災・ラジオ工作教室』 (産学共同取組)
- ・一般財団法人日本笑顔プロジェクト (小布施町浄光寺の林映寿副住職)
『平時を楽しみ！有事に備える！』 (住民取組)
- ・NiKKi Fron 株式会社
『水害経験からのレジリエンスとサステナブル経営への取組』 (復興)
- ・長野県
『流域治水の取組』 (流域治水) (国・県・市の連携)

話題提供

- ・高橋教授 (土木学会水工学委員会基礎水理部会長)
『暮らしを支える水理学概説』 (水理学)

○その他

CPD認定

- ・シンポジウム及び現地見学会参加者へ土木学会CPDを認定する。

展示

- ・パネル展示 (ホワイエ)
- ・ブース展示 (会議室等)

配信

- ・オンデマンド配信

懇親会

- ・ホテル立食形式で実施予定 (100 人想定)

広報 (活用する媒体、手法)

- ・チラシ、ポスター、ホームページ、SNS (インスタグラム・Facebook) 広告、
Google ディスプレイ広告

○シンポジウムプログラム

令和6年10月31日(木)

シンポジウム

13:00	開会	
13:30	特別講演【笹本館長】	(25分+質疑5分)
14:00	基調講演【松尾教授】	(50分+質疑5分)
14:55	休憩 【展示見学】	(30分)
15:25	話題提供【高橋教授】	(10分+質疑5分)
15:40	事業報告【吉谷教授】	(10分+質疑5分)
15:55	事例紹介【笑顔プロジェクト】	(15分+質疑5分)
16:15	事例紹介【NiKKi Fron(株)】	(15分+質疑5分)
16:35	事例紹介【SDGs地域防災プロジェクト】	(15分+質疑5分)
16:55	事例紹介【長野県】	(10分+質疑5分)
17:10	総括【泉委員長他】	(10分)
17:20	次回開催県挨拶【〇〇県】	(10分)
17:30	閉会	

懇親会

18:30～ ホテルメトロポリタン(立食形式)

令和6年11月1日(金)

現地見学会

9:00	長野駅東口発 (昼食)
17:15	長野駅東口解散

会場レイアウト及び展示計画（案）

○会場

- ・長野市若里市民文化ホール（長野県長野市若里3丁目22-2）
アクセス：JR 長野駅東口から徒歩25分 バス運行有
収容人数：ホール（606席 13列バリアフリー）
- ・当日は公共交通機関での来場を想定（来場者用駐車場なし）



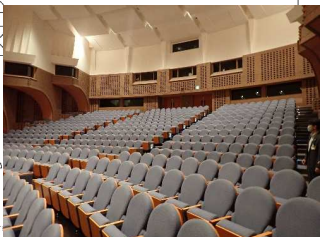
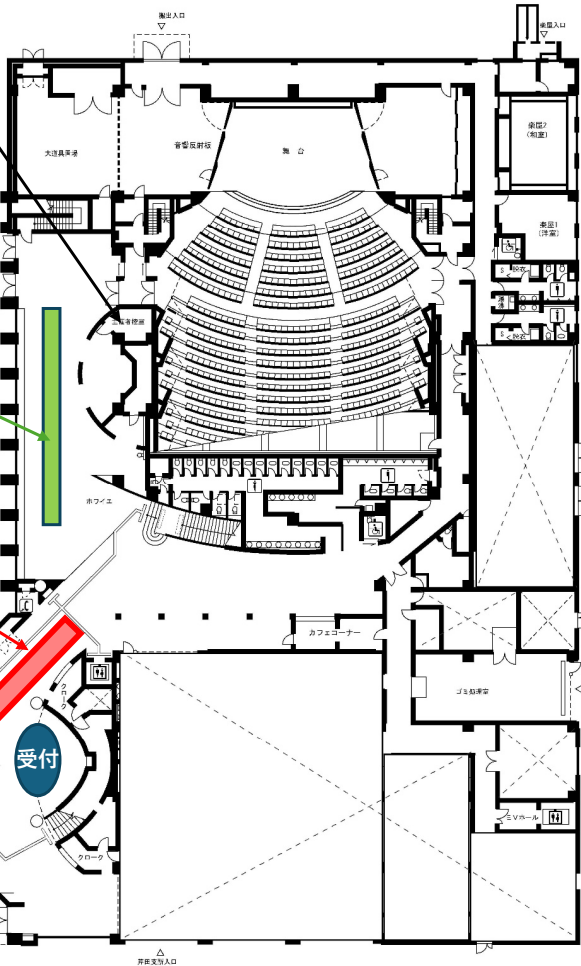
若里市民文化ホール1階平面図



司会者控室

パネル展示②

パネル展示①



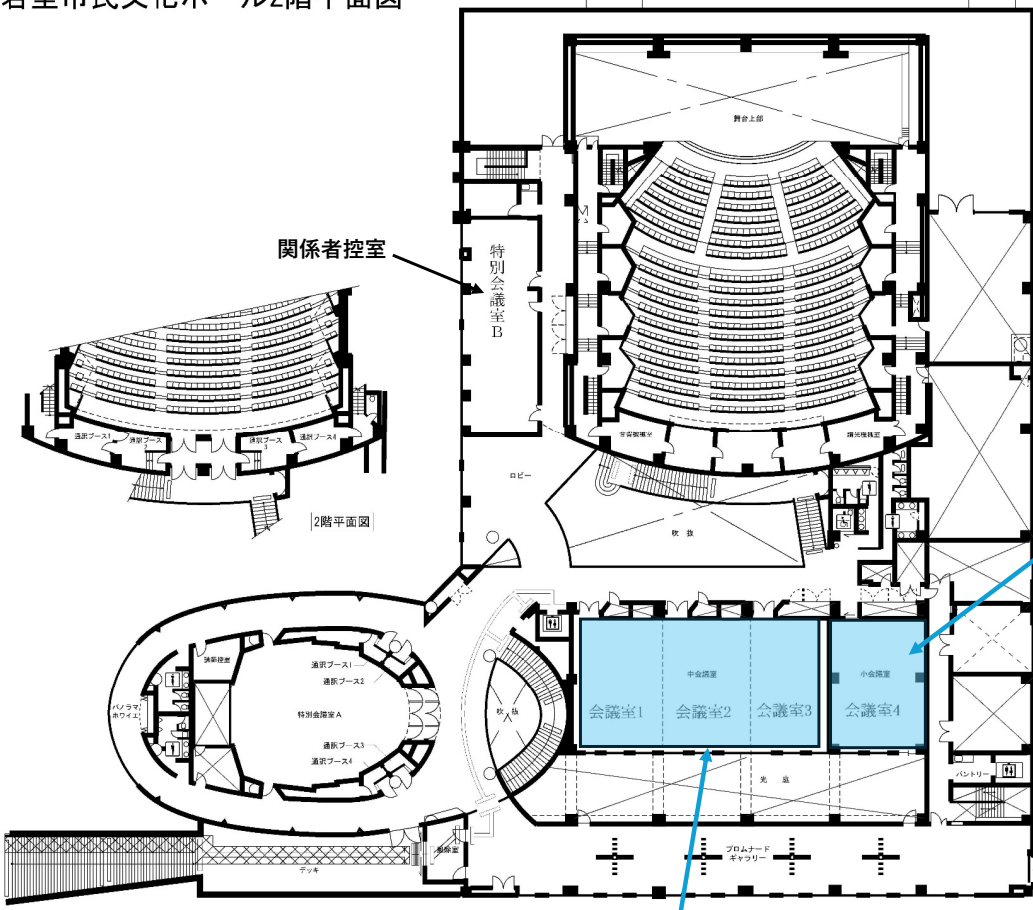
若里市民文化ホール2階平面図



関係者控室

ブース展示 (会議室1室) ※2社想定

ブース展示 (会議室3室をつなげる) ※7社想定



- ♂ 男子トイレ
- ♀ 女子トイレ
- ♿ 身障者用トイレ
- 🚪 エレベーター

展示料

パネル展示は展示料徴取無し（佐賀同様）

ブース展示①～⑨

展示料3万円／団体

収入見込

27万円（広報費に活用予定）

出展者

対象：広く水に関連するもの
（治水、環境、利水、住民取組など）

パネル展示：公募

ブース展示：公募

※集まらなければ、声掛け



ブース展示

○展示確認可能時間

- ・開会前
11：30～13：00（90分）
（会場11：30）
- ・シンポジウム休憩時間
14：55～15：25（30分）
- ・閉会后
17：30～18：00（30分）

ブース展示（⑧～⑨）
※2社想定

ブース展示（①～⑦）※7社想定

基礎水理部会活動報告

基礎水理部会WebサイトURL

<http://www.jsce.or.jp/committee/hydraulic/kisosuiri/> →

[部会長] 高橋 正行 (日本大学)
[副部会長] 溝口 敦子 (名城大学)
[幹事] 井上 卓也 (広島大学)

令和5年度活動報告概要

1. 基礎水理部会委員会

第1回R5年9月14日, 第2回R5年12月13日, 第3回R6年1月8日, 第4回R6年3月5日

2. 河川見学会

R6年1月8日～10日 四万十川・仁淀川

3. 基礎水理シンポジウム

R6年3月5日 テーマ：流れの計測・様々な流れ

4. 各種WG活動

生態水理に関するWG (代表：原田), 流砂・河床変動に関するWG (代表：音田)
数値解析支援ツールに関するWG (代表：旭), 流木力学に関するWG (代表：木村)



2002年10月2日8:50 台風21号直後の多摩川(原河原橋) 2007年9月7日5:25 台風9号直後 津波ビーグ尾橋時

土木学会 水工学委員会 基礎水理部会

最終更新:
2024.1.29 2023年度基礎水理シンポジウムが、[2024年3月5日\(火\)](#)に開催されます。詳細は[こちら](#)
2022.11.1 2022年度基礎水理シンポジウムが、2023年3月20日(月)に開催されます。詳細は[こちら](#)
2021.11.8 2021年度基礎水理シンポジウムが、2022年3月16日(水)に開催されます。詳細は[こちら](#)
2021.3.17 基礎水理シンポジウム2020 (2021.3.16 オンライン)を開催しました。詳しくは[こちら](#)

- 委員構成
- 内規
- ワーキング・グループ
 - 流木力学に関するWG (代表：木村 一郎)
 - 流砂・河床変動に関するWG (代表：音田 慎一郎)
 - 生態水理に関するWG (代表：田中 規夫)
 - 河川構造物等に作用する流体力と流れに関するWG (代表：田中 規夫)
 - 数値解析支援ツールに関するWG (代表：旭 一岳)

河川見学会

日時：R6年1月8日～10日

場所：四万十川・仁淀川

協力機関：中村河川国道事務所
高知河川国道事務所

参加者：

高橋 正行	日本大学
溝口 敦子	名城大学/東北大災害研
井上 卓也	広島大学
五十嵐 善哉	埼玉大学
音田 慎一郎	京都大学
張 浩	熊本大学
椿 涼太	名古屋大学
内藤 健介	ICHARM
山野井 一輝	京都大学
泉 典洋	北海道大学
辻本 久美子	岡山大学
平出 亮輔	国総研 河川研究室
河野 努	国総研 河川研究室（交流研究員）
松尾 峰樹	国総研 河川研究室（交流研究員）



基礎水理シンポジウム2023 -流れの計測・様々な流れ-

日時：R6年3月5日

場所：土木学会（東京・四谷）

参加者：48人（申込59名）

プログラム

講演1

榎涼太（名古屋大学）

題目：水中圧力変動を利用した洪水時の土砂と流れの分析の試み

講演2

吉田圭介（岡山大学）

題目：河川の航空レーザー計測：治水・水環境問題への利活用

基調講演

萬矢敦啓（土木研究所，河道保全研究グループ，河道監視・水文チーム）

岡田将治（高知工業高等専門学校），橋田隆史（ハイドロシステム開発）

題目：河川計測技術(or分野)の進展による水工学への貢献

～ADCP観測技術の体系化・国際基準化とその後の動向～

講演3

武若聡（筑波大学）

題目：Xバンドレーダによる天竜川河口域の土砂プロセスのモニタリング

講演4

渡部靖憲（北海道大学）

題目：砕波下の混相乱流

全体討論

司会：高橋正行（日本大学），パネリスト：講演者



生態水理に関するWG

1. 生態水理研究会 – Ecohydraulicsやろうぜ！ –

日時：2023年9月20日

場所：応用生態工学会第26回京都大会

2. WEBサイトの開設

<https://www.jsce.or.jp/committee/hydraulic/kisosuiri/r5/ecohydraulics.html>



流砂・河床変動に関する若手WG

1. 第10回勉強会

日時：2023年8月28日

場所：北海道河川財団



2. 第11回勉強会

日時：2024年3月7日, 8日

場所：琉球大学



数値解析支援ツールに関するWG

1. オンライン定例会

2023年7月20日

2023年8月13日

2023年10月20日

2023年11月17日

2023年12月15日

2024年1月19日

2024年2月16日

2024年3月15日

2. iRIC関連

(1) 講習会in東京

2023年12月18日～19日

日本大学工学部駿河台キャンパス

(2) 研究総会in京都

2024年1月11日

(3) 海外セミナー（マレーシア，台湾）



今年度の予定

1. 基礎水理部会の開催

- ①土木学会全国大会開催期間中 [R6年9月5日 (木)]
- ②水工学講演会開催期間中 [R6年12月3日 (火)]
- ③河川見学会開催期間中 [R7年1月初旬]
- ④基礎水理シンポジウム開催日 [R7年3月6日 (木)]

2. 第26回オンライン連続講演会（基礎水理部会担当回）

主担当・鶴崎（群馬大学）、副担当・内藤（ICHARM）
東京理科大・二瓶先生にご講演頂く予定

3. 河川見学会の開催

1月初旬を予定

4. 基礎水理シンポジウムの開催

R7年3月6日（木）を予定

河川部会報告

2024.6.5 水工学委員会資料

部会長	内田龍彦(広島大学)
副部会長	堀江克也(いであ(株))
副部会長	瀬崎智之(国土政策総合研究所)
委員(幹事長)	竹村吉晴(中央大学)

部会員:37名 委員(含兼幹事長・幹事)31名(民9・学11(内交流3名)・官11)
幹事5名(民2・学2・官1)、事務局1名

2023年度の主な活動(斜体は12月に報告済、下線は予定)

- 河川技術シンポジウム(6/22-6/23)
- 河川技術シンポジウム反省会(7/21 オンライン)
- 第一回河川部会(8/10 12:00～ハイブリッド)
- 水工学オンライン連続講演会河川技術論文賞受賞者講演～これからの治水について考える～(8/10 17:00～)
- 第二回河川部会(11/2 13:00～オンライン)
- 2024年度シンポジウム企画案と河川技術論文集第30巻の募集(11/5)
- 第三回河川部会(2024.2/19 13:00～ハイブリッド) 要旨査読結果の審議など
- 第四回河川部会(2024.4/26 13:00～ハイブリッド) 本論文査読結果の審議、OS企画、論文賞選定結果の審議(1件、現在は確定)など
- 第五回河川部会(2024.6/10 13:00～オンライン) シンポジウム詳細検討予定
- 河川技術シンポジウム(6/20-6/21) 対面拡大ハイブリッド 土木学会予定

河川部会員名簿

(2024.4.1付)

部会長	内田 龍彦	学
副部会長	瀬崎 智之	官
副部会長	堀江 克也	民
委員	安達 孝実	官
委員	碓 正敬	民
委員	岩見 収二	民
委員	宇都 洋一	民
委員	太田 一行	民
委員	尾花 まき子	学
委員	柄沢 祐子	官
委員	川池 健司	学
委員	呉 修一	学
委員	近者 敦彦	民
委員	武内 慶了	官
委員(幹事長)	竹村 吉晴	学
委員(幹事)	田端 幸輔	官
委員	知花 武佳	学

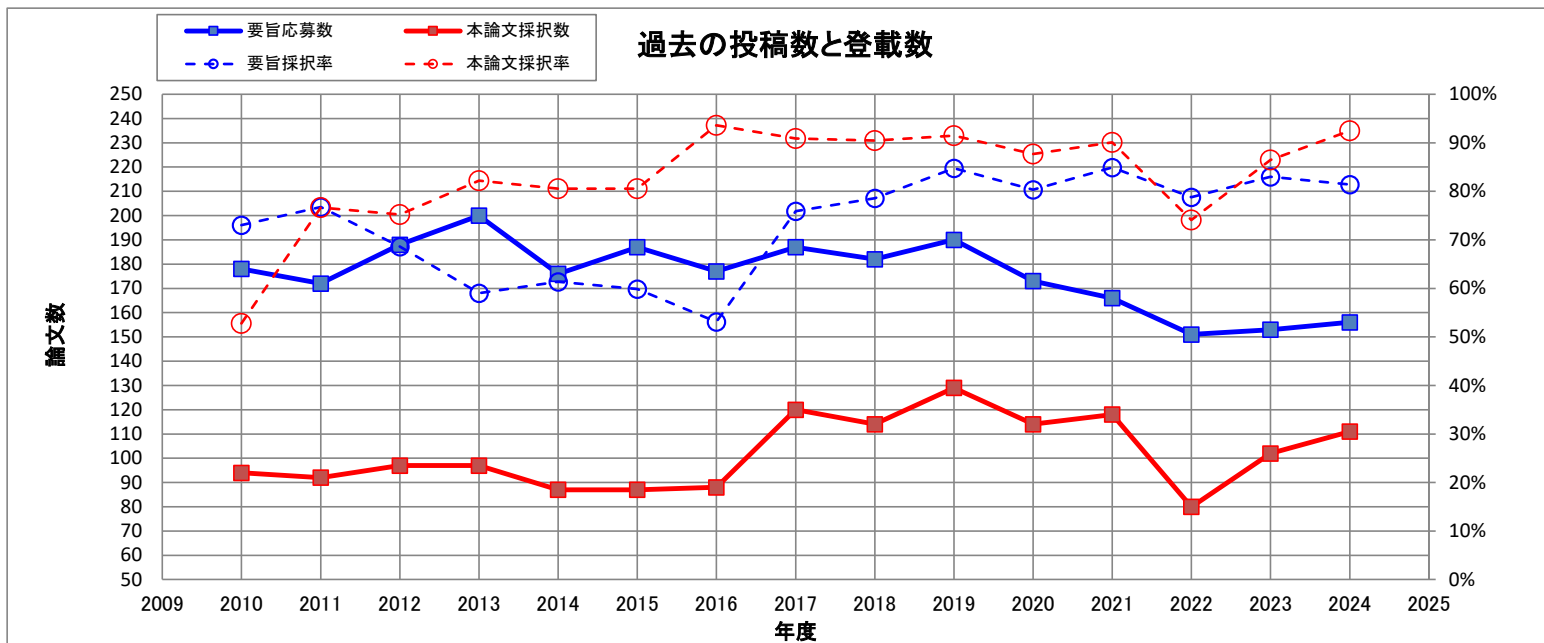
委員	椿 涼太	学
委員	鶴田 舞	官
委員	中村 圭吾	官
委員	西口 亮太	民
委員	原田 守啓	学
委員	藤田 士郎	官
委員	本田 隆英	民
委員	舛田 直樹	官
委員	松田 浩一	民
委員	溝口 敦子	学
委員	安井 辰弥	官
委員	山田 拓也	官
委員	吉川 泰弘	学
委員	萬 和明	学
幹事	猪股 広典	官
幹事	高橋 一徳	民
幹事	柏田 仁	学
幹事	見上 哲章	民
幹事	小山 直紀	学
事務局	那須 珠実	

河川技術論文集第30巻投稿状況

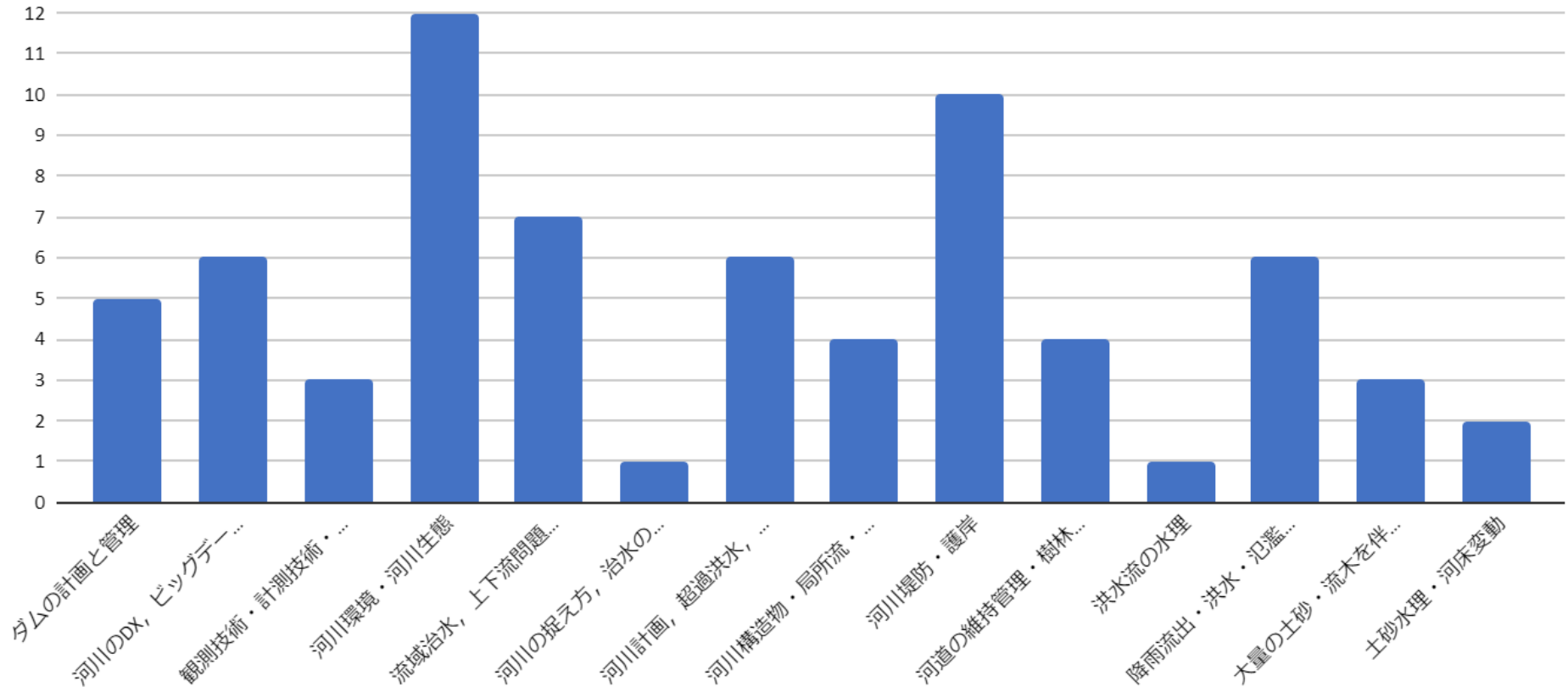
	Vol.16	Vol.17	Vol.18	Vol.19	Vol.20	Vol.21	Vol.22	Vol.23	Vol.24	Vol.25	Vol.26	Vol.27	Vol.28	Vol.29	Vol.30
	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
要旨応募数	178	172	188	200	176	187	177	187	182	190	173	166	151	153	156
要旨採択数	130	132	129	118	108	112	94	142	143	161	139	141	119	127	127
要旨採択率	73%	77%	69%	59%	61%	60%	53%	76%	79%	85%	80%	85%	79%	83%	81%
本論文投稿数		120	129	118	108	108	94	132	126	141	130	131	108	118	120
本論文採択数	94	92	97	97	87	87	88	120	114	129	114	118	80	102	110
本論文採択率	53%	77%	75%	82%	81%	81%	94%	91%	90%	91%	88%	90%	74%	86%	93%
全体採択率	53%	53%	52%	49%	49%	47%	50%	64%	63%	68%	66%	71%	53%	67%	71%
総説	0	0	0	4	2	3	2			1	0	1	2	3	3
招待論文	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0	0
論文+報告	94	92	97	93	85	84	86			128	114	117	78	99	107
開催場所	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	オンライン	土木学会講堂・オンライン	土木学会講堂・オンライン	土木学会講堂・オンライン

※辞退1編

オーガナイザーによる2023OS報告



投稿分野(第一査読通過論文)



- ・一般課題の募集テーマについて河川部会のねらいを論文募集(会告)時に記述
- ・各テーマの担当、投稿、査読、プログラムをできる限り一体化(第二希望、第三希望などを参考に調整)

2023年度河川シンポジウム・ 河川技術論文集第29巻投稿等について

●シンポジウム概要

- ・シンポジウム開催日：2024年6月20日(木)・21日(金)
- ・OS1、2：6/20(木)、OS3：6/21(金)ハイブリッド
- ・ポスター発表：6/20(木)対面のみ
- ・懇親会：6/20(木)対面のみ
- ・口頭発表：6/21(金)ハイブリッド
- ・特設サイトでのディスカッション(特設HP)

●論文集等スケジュール

- ・要旨応募(1/12締切)→本論文投稿(4/3締切)→最終原稿up(5/28～5/31)
- ・発表資料up(～6/17)・ディスカッション(6/17～6/28)

●謝辞

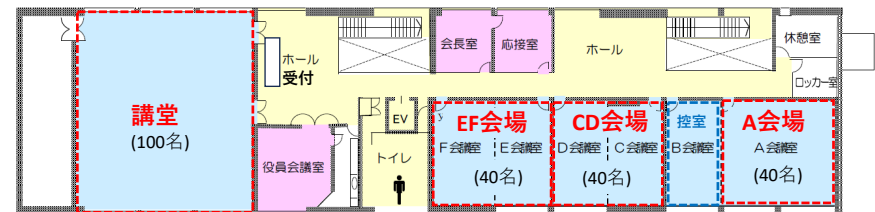
- ・貴重な研究成果を多数ご投稿いただきありがとうございました。
- ・部会外査読を継続⇒タイトなスケジュール(かつ水工学論文集の投稿と最終論文が重なる)の中、ご協力ありがとうございました。
- ・OS1のオーガナイザーをお引き受けいただいた山田先生ありがとうございます。OS2、3の話題提供者、パネラーの依頼があった場合にはご協力いただけるとありがたいです。

2023年度河川シンポジウムプログラム 暫定版

6月17日(月) ～28日(金)	発表論文の説明資料に対するオンラインディスカッション	
6月20日(木) 8:50- 9:50-10:00 10:00-10:30	第1日目 (対面・オンライン併用) 受付 開会の挨拶 (河川部会会長 内田 龍彦) 河川技術論文賞 表彰式 (水工学委員長 泉 典洋)	開催場所： 講堂＋ A,CD,EF 会場
10:30-12:30	特定課題オーガナイズドセッション1 (OS1) 「水災害対策の成長戦略 ～気候変動に対して求められる河川技術～ (仮)」 オーガナイザー：山田 朋人, 萬 和明 (他調整中)	講堂＋ A,CD,EF 会場
12:30-13:30	昼食	
13:30-15:30	特定課題オーガナイズドセッション2 (OS2) 「発展した数値解析技術が河道計画や設計に組み込まれるために何が必要か？」 オーガナイザー：堀江 克己, 瀬崎 智之, 田端 幸輔, 岩見 収二	講堂＋ A,CD,EF 会場
15:30- 16:10-17:40 17:40-	ポスター設置 ポスターセッション (PS) (対面のみ) ポスター撤去 (18:45 迄)	講堂＋ CD,EF 会場
18:00-	交流会	A 会場＋控え室

6月21日(金)	第2日目 (対面・オンライン併用)	
9:00-10:40	一般課題オーガナイズドセッション3 (OS3) 「治水と環境の調和した河道管理のための河川技術と現場実装」 オーガナイザー：原田 守啓, 武内 慶了, 中村 圭吾	講堂＋ A,CD,EF 会場
10:50-12:30	口頭発表 (セッション1)	講堂＋ A,CD,EF 会場
12:30-13:30	昼食	
13:30-15:10	口頭発表 (セッション2)	講堂＋ A,CD,EF 会場
15:20-17:20	口頭発表 (セッション3)	講堂＋ A,CD,EF 会場
17:30-17:50	閉会式 (河川部会副部会長 堀江 克也) 優秀発表者賞の発表	講堂＋ A,CD,EF 会場

会場MAP (土木学会二階)



シンポジウムの参加登録受付(2024年6月13日(木)締切)
ただし、投稿論文発表者は別途連絡(対面人数コントロールのため)
二日目の時間は変更の可能性あり(発表者数の関係)

アウトスタンディング・ディスカッション賞

河川シンポジウムの特設サイトはコロナ禍で生み出された試みの一つです。投稿論文や OS、OPS に関するしっかりとした議論の実施とその記録は河川部会として今後とも大事にしていきたい取り組みとなりました。そこで、そのディスカッションをさらに活性化させるために本賞を創設いたします。特に、**本賞の授与は発表者だけでなくすべての参加者を対象**といたしますので、参加者の皆様からの積極的なご議論を歓迎します。投票方法の詳細が決定次第お知らせします。

(HP掲載)

ポスターセッション・口頭発表(予定) -優秀発表者賞対象

ポスター発表

ポスターフレーム (1800mm×900mm) 両面

説明は前半40分、後半40分(切替10分、計90分)

口頭発表

発表時間 20分 (発表12分、質疑8分)

環境水理部会活動報告・活動予定

2024年度環境水理部会研究集会

日時: 2024年5月23日から5月24日

場所: 鹿児島県奄美大島

部会長 赤松良久(山口大学)
副部会長 新谷哲也(東京都立大学)
幹事 東 博紀(国立環境研究所)
幹事 巖島 怜(九州工業大学)

WG活動

沿岸海洋環境WG(主査: 齋田倫範(鹿児島大学))

- ・ WGメンバーを中心に意見交換を実施予定, 沿岸海洋環境に関する課題の共有・議論のためのワークショップや見学会等の開催を検討

火山麓河川水系WG(主査: 田代喬(名古屋大学))

- ・ 7/22-24白山・手取川水系巡検(6名参加)では, 東大北陸サテライト(坂本特任助教)を訪ねて交流したほか, 1934年7月手取川水害における白山麓の崩壊・地すべり, 土石流の痕跡や扇状地等での氾濫箇所等を見学.

閉鎖性水域WG(主査: 中山恵介(神戸大学))

- ・ 現地見学会・発表会(10月, 沖縄): ブルーカーボンおよびFreshwater Carbonを中心とした水環境研究を推進する

温暖化適応の環境水理学的視点からの探求WG(主査: 梅田信(日本大学))

- ・ 夏季～秋季にWGの開催予定.

水温WG(主査: 赤松良久(山口大学))

- ・ WGメンバーを中心とした意見交換会を実施予定

環境水理部会研究集会2024 in 奄美大島

現地見学会： 5月23日（木）11:30～17:30

住用川河口マングローブ干潟（黒潮の森マングローブパーク）

研究発表会： 5月24日（金）09:00～15:30

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室

- 研究集会参加者 28名
- 懇親会 28名
- 現地見学会 27名



山梨大学の大槻順朗先生、鹿児島大学の齋田倫範先生におかれましては、本集会の開催に際しまして、多大な尽力を頂きました。

大変、ありがとうございました。

研究集会 09:00 ~ 15:30

発表件数 16件

講演件数 1件

開会の挨拶 09:00-09:05

セッション 109:05-10:35

発表者	所属	タイトル/要旨
厳島怜	九州工業大学	日本列島の河川汽水域における水温の変化傾向とその要因
入江政安	大阪大学	浅い湖における水草除去の物理的効果
細川真也	港湾空港技術研究所	沿岸魚類相の環境DNAによる把握
滝山路人	山口大学	環境DNAを用いた魚類多様性及び魚類生息適地マップの作成
笠原太一	東京農工大学	石垣島宮良川の淡水魚類の生息環境評価
大槻順朗	山梨大学	奄美大島におけるリュウキュウアユ保全のための研究

休憩 10:35-10:40

特別講演
10:40-11:40

発表者	所属	タイトル/要旨
阿部慎太郎	環境省沖縄奄美自然環境事務所奄美群島国立公園管理事務所	奄美大島の自然と世界自然遺産登録への道のりと課題(仮)

昼食 11:40-12:20

セッション 212:20-13:50

発表者	所属	タイトル/要旨
福丸大智	山口大学	深層学習を用いた中国地方一級水系における河川水温予測モデルの高度化に関する検討
赤星怜	国立環境研究所	SOMを用いた有明海・八代海の海水交換特性に関する一考察
大中臨	山口大学	機械学習を用いた画像解析による効率的な河床粒度分布計測に関する基礎的検討について
小林隼	香川大学	高松市内を流れる御坊川を浮遊する夏季のプラスチックごみの実態調査
真寄寛太	香川大学	高松市東部の海域におけるプラスチックごみの実態調査
古畑岳	東京都立大学	砂浜におけるマイクロプラスチックの動態予測を目的とした固液連続解析

休憩 13:50-13:55

セッション 313:55-15:25

発表者	所属	タイトル/要旨
中山恵介	神戸大学	Freshwater Carbonと計算・シミュレーション技術
笠原豪	東京都立大学	扁平格子を用いた格子ボルツマン法による流体解析
山西威毅	九州工業大学	非静水圧水深積分1次元洪水モデルのダム破壊流れへの適用
大野峻聖	京都大学	不均質な堤体材料と堤外の流れを考慮した越流破壊実験
古里栄一	水資源環境工学研究所	混合水深評価手法の現状と課題

開会の挨拶・解散 15:25-15:30



研究発表会の様子



特別講演 阿部慎太郎様



35歳以下を対象とした
優秀発表賞

水文部会

2023年度活動報告・2024年度活動予定

2023年度活動報告

- 水文部会（水工学講演会@大阪）
- 部会内ワーキンググループの設置

2024年度活動予定

- 見学会（流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会との合同企画）
9月17日（火）午後，大和川流域の予定
- 水文部会（水工学講演会@富山）

部会内ワーキンググループの設置

- 研究グループのイメージです。
- 何か新しいことを勉強したいとか、共通の関心のある人たちで集まりを持ちたいとか、そんな感じでグループを作りたい、あるいは実際に作っている人達に、「水文部会ワーキンググループ」として活動頂く予定です。
- ワーキンググループの活動期間は最長2年とし、もし活動を延長したい場合は、あらためて申請書を出して頂くことにしています。
- 随時申請を受け付けています。
- 現時点で2グループ検討頂いています。

見学会(9/17午後, 大和川流域)

- 藤井掘削(R5出水概要と大和川の地形と特定都市河川指定の説明)
- 保田遊水地
- 吐田貯留機能保全区域指定予定箇所
- 田原本町貯留施設群
- 住宅整備に伴う調整池(薬王寺ローソン前)
- 亀の瀬地すべり
- 懇親会(王寺駅周辺)

国土交通省大和川河川事務所に
お世話頂いています

(1) 気候変動・地球環境問題－水工学委員会・地球環境委員会共催セッション

2024年度（令和6年度）土木学会全国大会 第79回年次学術講演会

2024年9月6日(金)：東北大学川内北キャンパス（年次学術講演会）

2023年度の試行開催から、本年度は本格的に開催。27編も投稿があった！4セッション取る事ができたので座長は花崎，渡部，小林に加えて，早稲田大学の伊藤先生に外部委託できた。

【内容】

近年の大雨や台風による災害の増加から推察される通り，気候変動の影響が顕在化しており，防災対策の強化の必要性は疑う余地がありません。同様に，水資源の確保と水環境の保全の観点からも，気候変動への適応も緊急の課題です。さらに，その他の地球環境問題にも対応していかなければなりません。そこで本セッションでは，日本の土木分野全体に関わる様々な観点から，適応策，緩和策，地球環境問題に関する幅広い研究と実践について議論します。また，分野横断的な研究を推進し，土木学会での連携を活性化します。この共通セッションは，水工学委員会と地球環境委員会が共催しています。

(2) グローバルメンバーの新旧交代を進める予定。退任しても良い先生に新任の先生を推薦してもらった。

(3) これから水工学講演会富山大会でのアゲールシンポジウムの企画を練る予定。

河道管理研究小委員会報告

委員長 戸田祐嗣(名古屋大)、幹事長 溝口敦子(名城大) 委員 合計 21名
顧問 1名

R5年度の活動報告

「堤防の侵食に対する安全性評価のための技術検討フレーム」の検討成果報告

流れ・河床変動解析と堤防侵食フォルト・ツリーを結合させた技術検討フレームをR01年の千曲川での被災事例(上田鉄道橋付近)を対象に構築した結果について論文投稿。
他河川への適用の検討を開始。2か月に一度の頻度で進捗報告。

堤防侵食WG 河岸侵食予測や対策に対する研究計画立案と意見交換

現地視察:2023/7/10 静岡河川事務所とオンラインにて意見交換

現地視察:2023/9/6、2024/4/15 安倍川にて現地視察と

共同研究実施に向けた打ち合わせを実施

河積管理WG 流下能力維持管理の手引き(案)をもとに関連課題について意見交換, 現地調査

意見交換:2023/12/14 オンラインにて意見交換 関東地整, 近畿地整, 北陸地整, 中部地整

現地視察:2024/3/22 伊自良川・揖斐川(中部地整)の現地調査

今後の予定

「堤防の侵食に対する安全性評価のための技術検討フレーム」

河川砂防技術研究開発公募枠組みも含め神通川などを対象に研究を実施

河積管理WG, 堤防侵食WG活動

それぞれのWGが、対象河川で課題を絞り研究を実施

水理・水文統計解析研究小委員会 活動記録

Task1,3 北野利一(名古屋工大)・小林健一郎(埼玉大学)

1月25日10:00~11:30 オンライン
国土交通省・気象庁との情報交換

Task2 田中智大(京大工学研究科)

5月末締め切り
レビュー論文執筆: 田中智大, 渡部哲史, 平賀優介, 畔柳陽介

Task3, 1 小林健一郎(埼玉大学)・北野利一(名古屋工大)

6月13日
オブザーバ(まず寶教授:防災科研)へのヒアリング

今後, 民間と河川計画課, 気象庁との活動

水理・水文統計解析研究小委員会

委員

委員：14名

風間聡(委員長、東北大)
小林健一郎(幹事長、神戸大)
近森秀高(岡山大)
北野利一(名工大)
矢野真一郎(九大)
渡部哲史(九大、比較社会)
萬和明(京都大学)
田中耕司(大阪工大)
仲江川敏之(気象研)
谷口博(神戸高専)
木村延明(農研機構)
山田朋人(北大)
石川博基(水管理・国土保全局 河川計画課 河川計画調整室長)
岡部真人(国土技術センター)

幹事：16名

田中智大(京都大学)
山田真史(京大防災研)
小柴孝太(京大防災研)
川上拓(日本工営)
丸谷靖幸(九州大学)
与賀田隆史(日本工営)
大熊広樹(東洋建設)
尾ノ井龍仁(パソコン)
平子遼(舞鶴高専)
新井涼允(電力中央研究所)
平賀優介(東北大学)
丸尾啓太(農研機構就職予定)
畔柳陽介(パソコン)
辻倉 裕喜(建設技研)
竹本麻理子(応用地質)
福谷陽(関東学院大学)
小山直紀(中央大学)
服部啓太(土木研究所)

学生幹事

井野川七虹(神戸大学)

オブザーバ

寶 馨(防災科研)
田中茂信(京大名誉教授)
葛葉泰久(三重大)
立川康人(京都大学)

河川観測高度化小委員会

『2024年河川観測高度化シンポジウム』実施報告 **79名の参加者**

日時 2024年4月6日（土）13時30分～17時（13時～受付開始）

場所 中央大学後楽園キャンパス3号館14階 産学官連携・社会共創フロア セミナー室

基調講演 「河川画像工学に関する研究の歩み」 藤田一郎先生（神戸大学名誉教授）

講演

15：00～15：20 「流域治水の効果を評価するための流量観測システムの提案」

萬矢敦啓様（国立研究開発法人土木研究所）

15：20～15：40 「STIV法と鉛直流速分布を考慮した流量算出精度向上の検討」

佐々木章允様（株北開水工コンサルタント）

15：40～16：00 「非接触型流速計測法の現場実装に向けた留意点」

本永良樹様（一般財団法人河川情報センター）

16：00～16：20 「GPS浮子観測（仮題）」

清水健作様（明星電気株）

16：20～16：40 「非接触型流速計測における風が及ぼす影響について（荒川下流での現地観測報告）」

浜口憲一郎様（パシフィックコンサルタンツ株）

16：40～17：00 「最大エントロピー法を用いたADCPの不感帯の推定に関する検討」

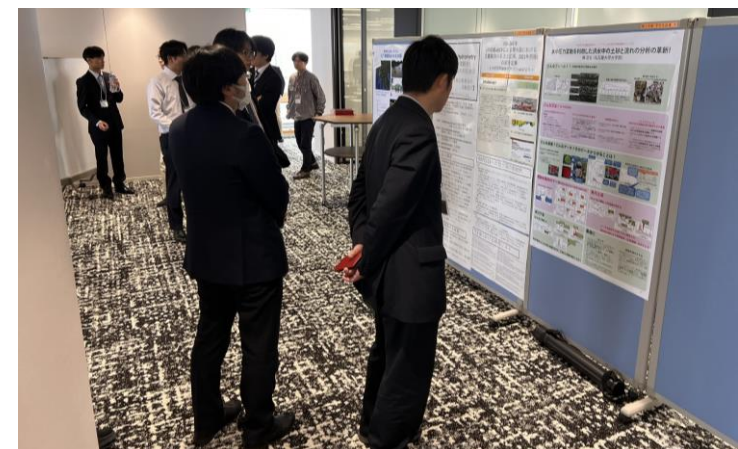
井上敬太様（中央大学大学院理工学研究科）

ビデオ出演 「画像解析技術への期待と課題」

九州地方整備局河川部

17：15～

懇親会



合同流量観測会

8月26日(月)～28日(水)（本番27(火)予定）

堀之内観測所（魚野川）

水工学オンライン小委員会報告

- **メンバー** ※2024年6月2日現在
重枝(九工大), 山上路生(京大), 小山(中央大), 内藤 (ICHARM), 原田(岐阜大), 山崎(東大), 乾 (福工大), 後藤(中央大), 五十嵐善哉(埼玉大), 尾花まき子(中部大), 辻本久美子(岡山大), 溝口裕太(土木研究所自然共生センター), 花崎直太(国立環境研究所), 新井涼允(電力中央研究所)
- **オブザーバー**
泉典洋 水工学委員会委員長, 佐山敬洋 同幹事長, 武田誠 前委員長
- **担当**
水工学オンライン連続講演会, 他

水工学オンライン連続講演会

回	開催日時	講師	講演題目・内容
24	2024年3月12日 (火) 17時~	江頭 進治 先生 (ICHARM)	題目 「密度流・土石流・掃流砂・浮遊砂研究における課題と展望」
25	2024年5月7日 (火) 17時~	田中 規夫 先生 (埼玉大学)	題目 「植生水理学は植生管理や河川環境の創生上のニーズにどこまで対応しているか：その可能性と課題」

今後の予定

第26回 2024年7月 基礎水理部会

Zoomウェビナーで実施.

河川懇談会(中北座長, 清水義彦副座長, 二瓶幹事長)

- ・ 2022年4月以降, 月一回懇談会を開催
- ・ 行政と学会間の情報交換を密に, 気軽にできる場 (オンライン)
- ・ 学側1名, 官側1名の話提供

HP公開不可

1月	2024/1/18 (木) 17:00-18:30	森本 輝	本省河川計画課	河川計画課長	令和6年 能登地震における政府の対応 (仮)
		山上路生	京大防災研	教授	能登半島地震に起因する、上越地方の津波遡上被害および沿岸被災
		森 信人	京大防災研	教授	能登半島地震地震津波調査と特徴的な被害について
2月	2月休み				
3月	3月休み				
4月	4月休み				
5月	2024/5/27 (月) 17:30-19:00	水草 浩一	土木研究所 河道 保全研究グループ	上席研究員	ダムの水理設計および模型実験における昨今の課題認識
対面		宮本 仁志	芝浦工業大学	教授	河道位数_再訪：流域地形・流量・土地利用・河川水温

水害対策小委員会

2023年12月以降の活動

- 2024年1月： 2023年度第四回水害・土砂災害等による
建築物等の被災調査マニュアル検討WG
- 2024年1月： 2023年度 第二回水害対策小委員会開催（オンライン）
- 2024年3月： 2023年度第五回水害・土砂災害等による
建築物等の被災調査マニュアル検討WG
- 2024年4月： 河川災害に関するシンポジウム（対面・オンライン）
参加人数：702人
- 2024年4月： 次期土木学会会長との懇談
- 2024年5月： 2024年度第一回水害・土砂災害等による
建築物等の被災調査マニュアル検討WG



河川災害に関するシンポジウム2024の様子

----- Forwarded message -----

From: 飯野 実 <minoru@jsce.or.jp>

Date: 2024年1月11日(木) 15:41

Subject: (お願い) 令和6年度能登半島地震調査団の派遣につきまして

To:

Cc: 三輪 準二 <j-miwa@jsce.or.jp>, 工藤 修裕 <kudo@jsce.or.jp>, b研究事業課全員宛
<b_kennkyuu_9@jsce.or.jp>

=本メールはBCCでお送りしております=

調査研究委員会
委員長、副委員長、
幹事長、副幹事長 各位

いつもお世話になっております。

土木学会の調査研究委員会としての令和6年度能登半島地震調査団派遣につきましてお願いを申し上げます。

令和6年能登半島地震調査は発災直後から調査研究活動をいただき誠にありがとうございます。
土木学会は現在、1月5日(金)に災害対策本部を設置し、情報収集、情報発信、速報会開催等の対応を行っております。

さて、各委員会は調査団派遣についてご検討をいただいている委員会もあると思います。
現在、土木学会本部は国土交通省本省と連絡をとっておりますが、本日時点で、まだ、北陸地方整備局等、
現地の行政機関(国、県、市町村等)とは連絡を取らないよう、要請を受けています。

つきましては、現地における救助・救援、復旧・復興を最優先する観点から、無用の混乱を招かないためにも、
各調査研究委員会の現地調査団派遣について当面の措置として以下の対応をお願いを申し上げます。

1. 各委員会から「土木学会」として、個別に、現地の行政機関等に、調査にかかる問い合わせ・確認等の連絡を取らないようお願い申し上げます。
2. あわせて、現地の行政機関等の確認、了解が取れるまでは、土木学会の調査団として派遣はしないことといたします。
3. 現地調査を行う場合は、「個別の研究者」もしくは「他団体」として実施し、現地で「土木学会」として活動しない(「土木学会」を名乗らない)ようお願い申し上げます。

今後、状況に変化がございましたら、改めてご連絡を申し上げます。

よろしくご理解をいただきますようお願い申し上げます。

土木学会事務局 研究事業課 飯野 実
〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内)
E-mail minoru@jsce.or.jp
TEL 03-3355-3559 FAX 03-5379-0125

ホーム

社会支援部門の活動について

社会支援部門は、土木学会の中長期計画である「JSCE2005」に基づき、**諸災害時の緊急支援や裁判への専門的知識の提供支援**など、社会のクリティカルな問題の解決への専門的・直接的支援を機動的に行うことを目的として設置されました。

特に大災害の緊急対応にあたっては、1995年の阪神淡路大震災の経験に鑑み、国内外を問わず大災害が発生した際に、学識経験者からなる調査団を緊急に派遣し、学術的、技術的見地からメカニズムの解明と防災上の提案を行なう仕組みを創設しております。

近年の多発する災害に対して適切な防災・減災のための解決策を提言するため、国内では平成16年7月の北陸豪雨災害、同年8月の四国豪雨・高潮災害、9月・10月の台風21号・23号災害、同じく10月の台風23号災害、10月の新潟県中越地震災害、平成17年3月の福岡県西方沖地震災害に対して、発災後ただちに災害対策本部を設置し調査団を派遣して、専門的調査を行いました。特に、新潟県中越地震災害については、一次・二次の本部調査団と関東支部調査団を派遣し、それぞれ緊急報告会を実施しています。第二次調査団からは政策等に関する「緊急提言」が行なわれ関係機関への説明を実施致しました。また、平成18年7月の九州南豪雨災害に対しても緊急調査団を派遣しています。

水害・土砂災害発生直後の災害調査について

水害対策小委員会としての問題意識

- ・1月の能登半島地震に関する災害調査について、発災後1ヶ月間は土木学会の看板で災害調査が自由にできなかったことをどのように改善していくべきか（もしくは改善そのものが不要なのか）？
- ・行政として、「現地における救助・救援、復旧・復興を最優先」。研究者として、「今後の防災・減災に資する研究を実施したい、被災状況がそのまま残っている発災直後に現地で調査をしたい、など」。どこで折り合いをつけるか？

改善方法

- ・発災直後については、研究活動のためだけに現地調査を実施するのではなく、被災直後に被災者や行政のサポートをできる活動を同時に実施する。
(ex. 二次災害防止のための解析・アドバイス, 救助方法のアドバイス, 各種メディアを通じた専門知識による解説・正しい防災情報の提供など)

要望事項

- ・土木学会社会支援部門の活動目的である「諸災害時の緊急支援」, 「学識経験者からなる調査団を緊急に派遣し、学術的、技術的見地からメカニズムの解明と防災上の提案を行なう」を実施頂きたい。
- ・「土木学会の調査団として派遣はしない」と判断するのではなく、調査するためにはどのような方法があるのか, その都度検討頂きたい。
- ・発災直後における行政や被災者から土木学会へのニーズを把握し, 被災直後に土木の研究者が現地入りすることが行政・被災者からも期待されるような仕組みや環境ができるよう, 継続的に検討頂きたい。

水害対策小委員会

今後の予定

- 2024年6月： 2024年度第一回水害対策小委員会開催
- 2024年7月： 2024年度第二回水害・土砂災害等による
建築物等の被災調査マニュアル検討WG
- 2025年4月： 河川災害に関するシンポジウム（対面・オンライン）

- ・ 国内・海外の水害調査団結成のサポート
- ・ 建築学会とのコラボレーション
- ・ 水害対策小委員会Facebookでの情報発信
- ・ 水害対策小委員会HPの充実
- ・ 消防連携WG
- ・ 水害対策小委員会災害調査データベースWG

2024年5月22日

水工学委員会
委員長 泉 典洋 様

公益社団法人 土木学会
調査研究部門
主査理事 鎌田 敏郎

2023年度 調査研究委員会の活動度評価の結果および
2024年度調査研究費予算配分について（ご報告）

土木学会 調査研究部門会議は、調査研究部門に所属する委員会の 2023 年度における活動度について、厳正に評価いたしました。

その結果、貴委員会の活動度の評価結果は下記のとおりとなりましたので、ご報告いたします。

なお、ご参考までに 2018 年度～2023 年度の総合評価を併記いたしますとともに、「2023 年度実績の委員会情報発信数」を添付いたします。

記

1. 2023 年度実績の委員会活動度評価結果および 2023 年度予算配分額

年度	情報発信数			活動度評価 ランク	2024 年度配分 額
	①行事参加者数	②出版物購読者数	合計（①+ ②）		
2023 年度	5902 人	1264 人	7166 人	A	858 千円

- ・ 上記配分額には、調査研究拡充支援金を含みません。
- ・ 活動度評価が C ランクとなった委員会は、研究企画委員会に対して活動内容、情報発信数が低迷した理由及び情報発信数以外で評価して欲しい点を別紙にて報告するものとする。
- ・ 活動度改善に向けて、調査研究部門としても適宜個別にアドバイスさせていただきますので、何かございましたら問合せ窓口までお知らせください。また、評価結果に異議のある委員会についても問合せ窓口までご連絡ください。

2. [参考] 活動度評価ランクと予算配分の関係

活動度評価 ランク	情報発信数	予算配分
A	2,500人以上	予算総額に応じて55万円+情報発信数に応じた金額。ただしAランクの情報発信数は2,500人として計算※。
B	500人以上 2,500人未満	
C	500人未満	一律55万円

※A, Bランクの委員会の予算配分方法

$$\text{予算配分額} = 55 \text{ 万円} + \text{情報発信数 (500人超分) に比例した金額}$$

$$= 55 \text{ 万円} + (S - 55 \text{ 万円} \times n) \times a / b$$

ここに、S：当該年度の調査研究委員会の総予算額（2024年度調査研究部門予算から新規制度等調査研究費（重点研究課題）ならびに研究企画委員会予算を除いた21,361千円）

a：当該委員会の情報発信数（Aランクは2,500人とする）-500人

b：全委員会のaの合計（2023年度：35,179人）

n：委員会数（現在29、研究企画委員会は含まず）

3. [参考] 2018年度～2023年度の貴委員会の総合評価

年度	総合評価
2018年度	A
2019年度	A
2020年度	A
2021年度	A
2022年度	A
2023年度	A

問合窓口：事務局 研究事業課長 飯野（minoru@jsce.or.jp）

以上

1) 土木学会論文集特集号(水工学)編集小委員会委員構成(2024/6/3時点)

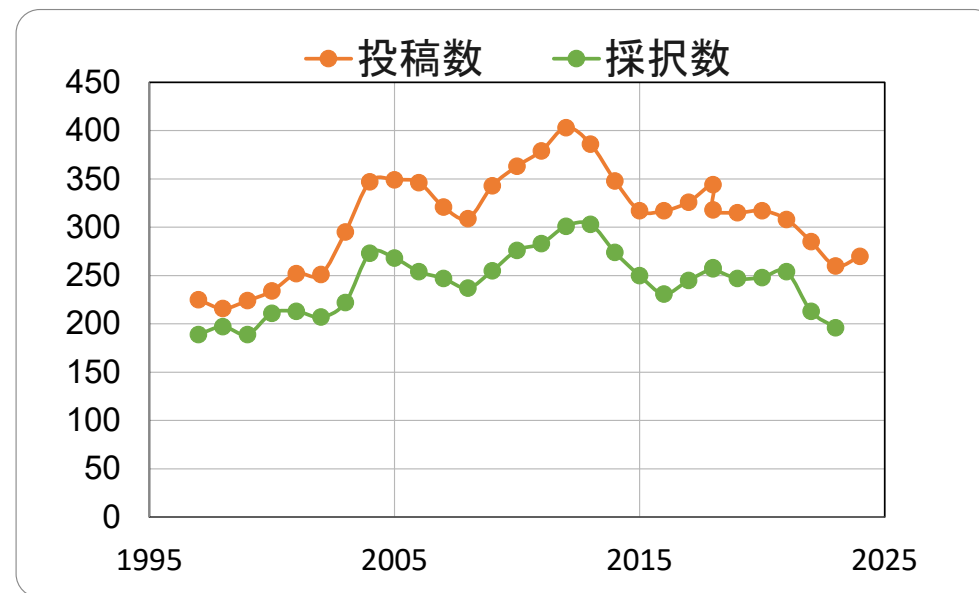
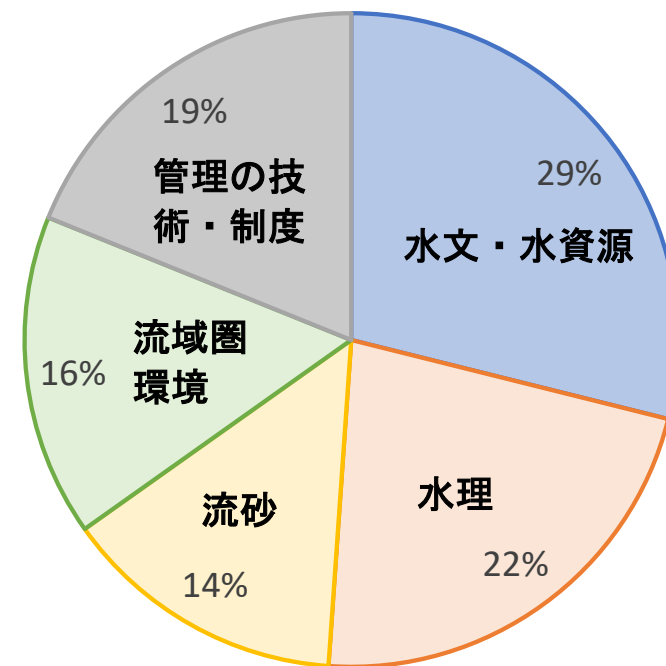
	委員区分	氏名	勤務先	査読部門
1	委員長	泉 典洋	北海道大学	—
2	幹事長	佐山 敬洋	京都大学防災研究所	—
3	編集幹事長	小田 僚子	千葉工業大学	—
1	委員兼幹事	市川 温	京都大学	水文・水資源
2	委員兼幹事	鼎 信次郎	東京工業大学	水文・水資源
3	委員兼幹事	田中 賢治	京都大学	水文・水資源
4	委員兼幹事	谷口 健司	金沢大学	水文・水資源
5	委員	石平 博	山梨大学	水文・水資源
6	委員	井上 一哉	神戸大学	水文・水資源
7	委員	柿沼 太貴	土木研究所	水文・水資源
8	委員	風間 聡	東北大学	水文・水資源
9	委員	吳 修一	富山県立大学	水文・水資源
10	委員	小林 健一郎	埼玉大学	水文・水資源
11	委員	瀬戸 心太	長崎大学	水文・水資源
12	委員	相馬 一義	山梨大学	水文・水資源
13	委員	辻本 久美子	岡山大学	水文・水資源
14	委員	中川 啓	長崎大学	水文・水資源
15	委員	中村 要介	三井共同建設コンサルタント株式会社	水文・水資源
16	委員	平林 由希子	芝浦工業大学	水文・水資源
17	委員	森脇 亮	愛媛大学	水文・水資源
18	委員	山口 弘誠	京都大学防災研究所	水文・水資源
19	委員	横尾 善之	福島大学	水文・水資源
20	委員	芳村 圭	東京大学生産技術研究所	水文・水資源
21	委員(EM補佐)	稲垣 厚至	東京工業大学	水文・水資源
22	委員(EM補佐)	渡部 哲史	九州大学	水文・水資源
23	委員(EM補佐)	丸谷 靖幸	九州大学	水文・水資源
1	委員兼幹事	山上 路生	京都大学	水理
2	委員兼幹事	重枝 未玲	九州工業大学	水理
3	委員兼幹事	武田 誠	中部大学	水理
4	委員兼幹事	田端 幸輔	国土技術政策総合研究所	水理
5	委員兼幹事	二瓶 泰雄	東京理科大学	水理
6	委員	赤穂 良輔	岡山大学	水理
7	委員	川池 健司	京都大学	水理
8	委員	佐藤 隆宏	電力中央研究所	水理
9	委員	杉原 裕司	九州大学	水理
10	委員	高橋 正行	日本大学	水理
11	委員	田中 規夫	埼玉大学	水理
12	委員	椿 涼太	名古屋大学	水理

13	委員	中山 恵介	神戸大学	水理
14	委員	横嶋 哲	静岡大学	水理
15	委員(EM補佐)	橋本 雅和	関西大学	水理
16	委員(EM補佐)	岡本 隆明	名城大学	水理
1	委員兼幹事	音田 慎一郎	京都大学	流砂
2	委員兼幹事	川村 里実	寒地土木研究所	流砂
3	委員兼幹事	溝口 敦子	名城大学	流砂
4	委員	井上 卓也	広島大学	流砂
5	委員	岩崎 理樹	北海道大学	流砂
6	委員	内田 龍彦	広島大学	流砂
7	委員	岡村 誠司	いであ株式会社	流砂
8	委員	陰山 建太郎	日本工営株式会社	流砂
9	委員	竹林 洋史	京都大学	流砂
10	委員	三輪 浩	鳥取大学	流砂
11	委員(EM補佐)	山野井 一輝	京都大学防災研究所	流砂
1	委員兼幹事	田井 明	福岡工業大学	流域圏環境
2	委員兼幹事	宮本 仁志	芝浦工業大学	流域圏環境
3	委員	赤松 良久	山口大学	流域圏環境
4	委員	石塚 正秀	香川大学	流域圏環境
5	委員	巖島 怜	東京工業大学	流域圏環境
6	委員	入江 政安	大阪大学	流域圏環境
7	委員	梅田 信	日本大学	流域圏環境
8	委員	大槻 順朗	山梨大学	流域圏環境
9	委員	高橋 直己	香川高等専門学校	流域圏環境
10	委員	原田 守啓	岐阜大学	流域圏環境
11	委員	矢野 真一郎	九州大学	流域圏環境
12	委員	横山 勝英	東京都立大学	流域圏環境
13	委員(EM補佐)	溝口 裕太	土木研究所	流域圏環境
14	委員(EM補佐)	片岡 智哉	愛媛大学	流域圏環境
1	委員兼幹事	大石 哲	神戸大学	管理の技術・制度
2	委員兼幹事	川越 清樹	福島大学	管理の技術・制度
3	委員兼幹事	戸田 祐嗣	名古屋大学	管理の技術・制度
4	委員	阿部 孝章	寒地土木研究所	管理の技術・制度
5	委員	荒木 千博	株式会社建設技術研究所	管理の技術・制度
6	委員	岡田 将治	高知工業高等専門学校	管理の技術・制度
7	委員	田代 喬	名古屋大学	管理の技術・制度
8	委員	手計 太一	中央大学	管理の技術・制度
9	委員	長田 健吾	阿南工業高等専門学校	管理の技術・制度
10	委員	瀬崎 智之	国土技術政策総合研究所	管理の技術・制度
11	委員	山田 朋人	北海道大学	管理の技術・制度
12	委員	渡邊 武志	パシフィックコンサルタンツ株式会社	管理の技術・制度

2) 今年度の投稿状況

275本の投稿があり，過年度「未完成の投稿」からの投稿3本，重複投稿2本を差し戻し，**270本**を受理した。

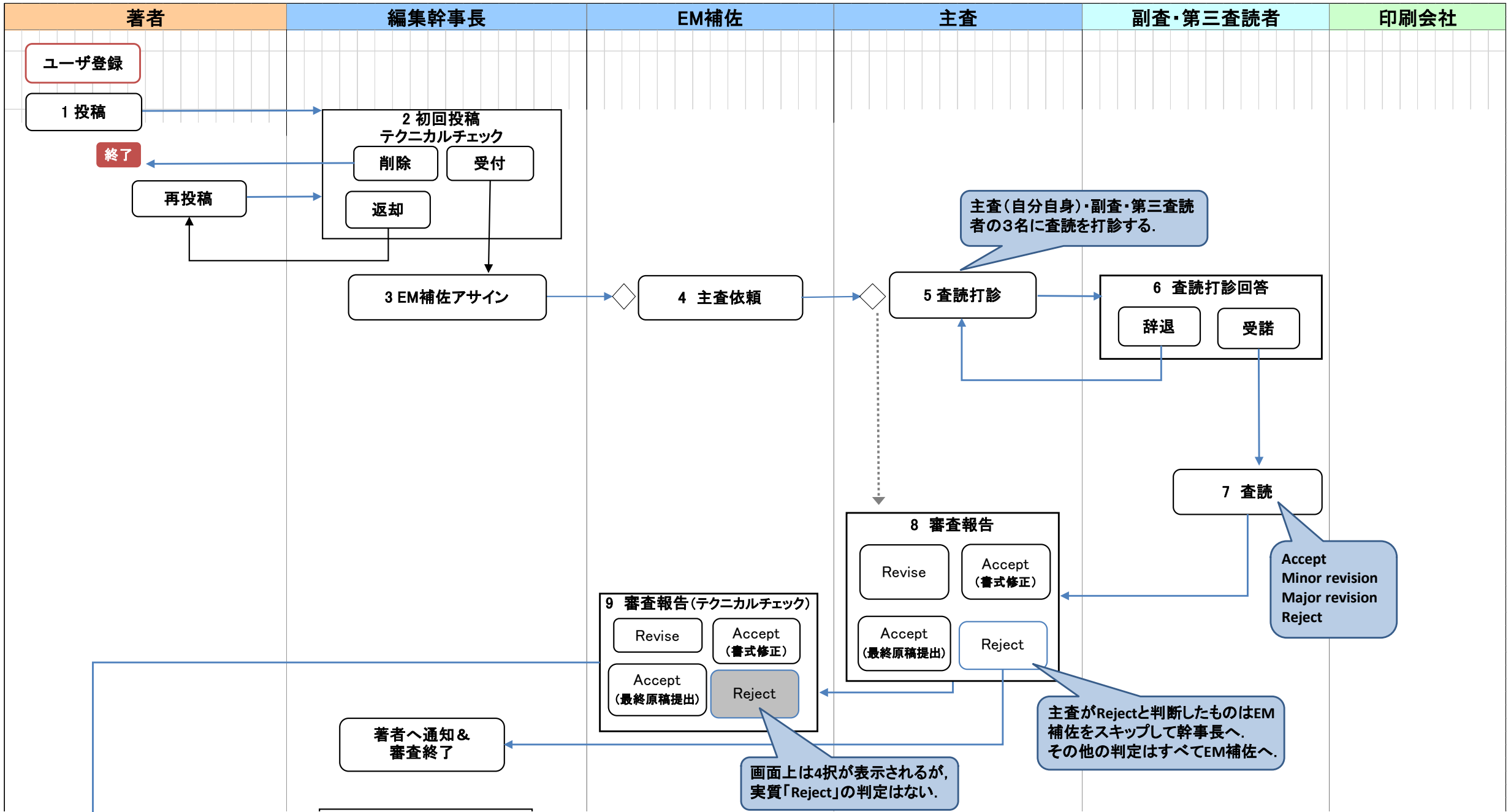
分野	査読分野キーワード	投稿数	投稿数		採択	
			2024	2023	2024	2023
水文・水資源	水文・水資源	78	-	17	-	13
	降水過程・降水予測		11	11		10
	積雪・融雪過程		1	1		0
	大気・陸面水文過程		15	15		12
	流出・氾濫		31	17		16
	地下水・浸透		5	3		1
	水文量の確率・統計解析		10	6		4
	その他		5	6		6
水理	水理	60	-	15	-	9
	管路・局所流		3	2		2
	開水路の水理		20	16		10
	破堤・氾濫の水理		18	16		14
	流体力・流体振動・波動・密度流		13	7		6
	その他		6	1		0
流砂	流砂	38	16	22		16
	河床形態・流路形態		6	7		4
	河床変動		12	10		9
	流木・土砂生産		4	7		4
	その他		0	1	-	1
流域圏環境	流域圏環境	43	-	4	-	1
	流域の流出負荷・水質		8	2		3
	閉鎖性水域・沿岸域の水理・水質		18	11		9
	水生生物・魚類		9	12		10
	生態系管理		3	1		1
	河道・沿岸域の植生		4	5		4
	その他		1	2		0
管理の技術・制度	管理の技術・制度	51	-	2	-	0
	避難情報，方法		8	3		3
	維持管理技術		5	3		1
	治水計画・水資源計画		15	12		9
	観測・計測技術		13	13		11
	ダム管理		9	7		4
その他	1	3		3		
	計	270	270	260	0	196

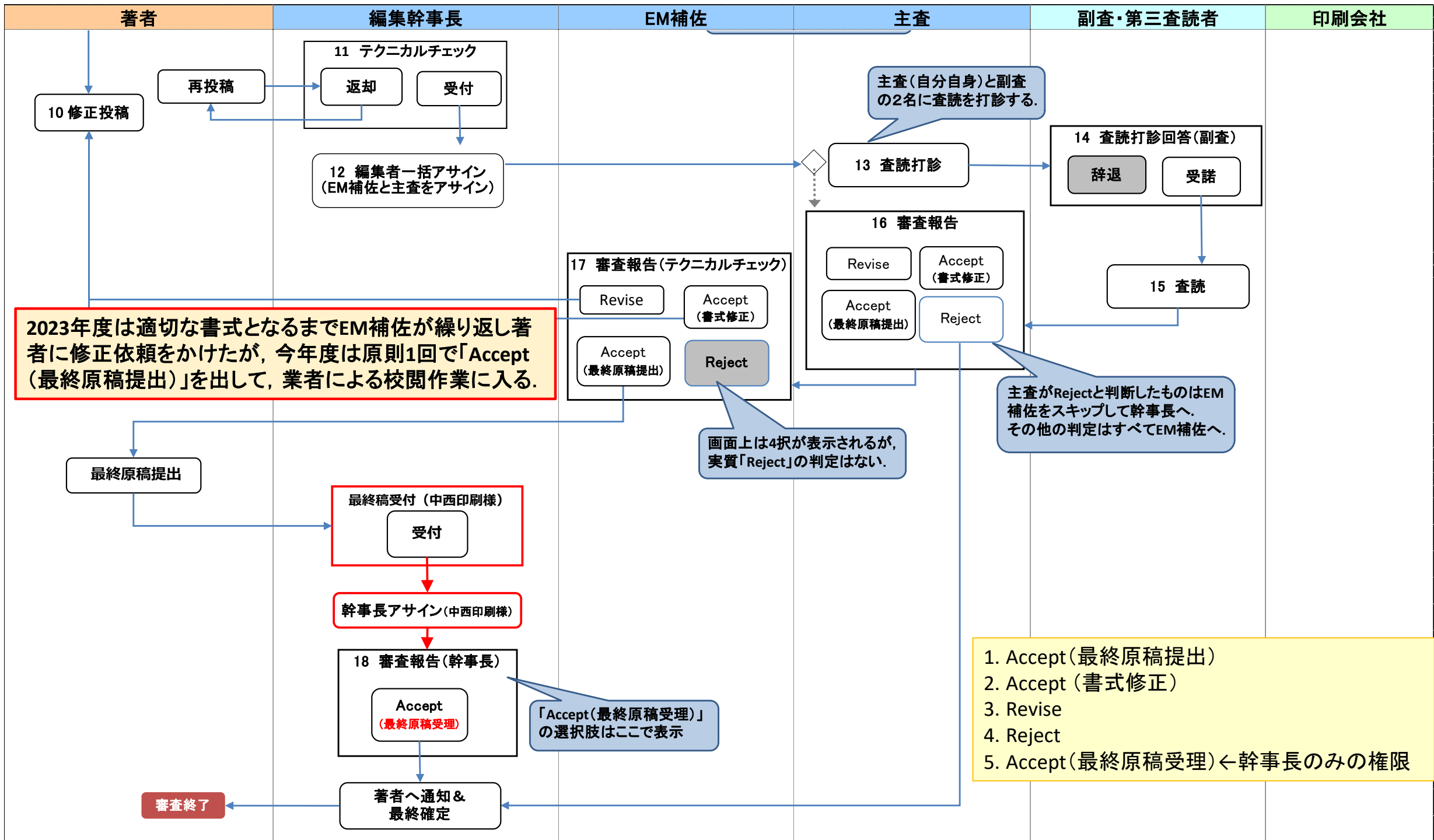


3) 投稿～J-Stage論文公開までの流れ

日程	会議・工程	著者	編集 幹事長	EM 補佐	幹 事	主 査	副 査	第三 査読者	参考（担当）	会場
2024年4月30日(火)	論文投稿受付開始(10:00)	○							著者	
2024年5月23日(木)	第1回編集小委員会 10:00～12:00, 編集作業の確認		○	○	○	○	○			zoom
2024年5月31日(金)	論文投稿受付締切(17:00)	○	○						著者→編集幹事長	
2024年6月6日(木)	第1回編集小委員会幹事会（主査・副査の決定） 13:00～17:00		○		○				編集幹事長・編集幹事	zoom&Google Spread sheet
2024年6月7日(金)午後 ～6月10日(月)	第2回編集小委員会（メール：査読依頼）		○	○	○	○	○			
	EM補佐に論文割り当て（幹事長がEM補佐をアサイン）		○	○					編集幹事長→EM補佐	
	主査に論文割り当て（EM補佐が主査をアサイン）			○		○			EM補佐→主査	
	主査が副査と相談（確認）のうえ第三査読者を選定					○	○		主査・副査	Google Spread sheet
	主査が副査・第三査読者を割り当て （主査が副査と第三査読者をアサイン）					○	○	○	主査→副査・第三査読者	
2024年6月15日(土)	第三査読者の決定期限（主査が副査と第三査読者のアサインを完了）					○	○	○	主査→副査・第三査読者	
2024年7月8日(月)	第1回査読期限（期限以前でも回答が揃ったら順に審議してOK）					○	○	○	主査・副査・第三査読者	
2024年7月11日(木) ～7月15日(月祝)	第1回査読結果取りまとめ & 著者への査読結果配信期限 ※EM補佐はメール文面・宛先の確認を行う。			○		○			主査→EM補佐 (Rejectは編集幹事長へ)	
	第3回編集小委員会（メール：返却論文, 要修正論文, 登載論文の決定）		○	○	○	○	○			
2024年8月5日(月)	修正原稿受付締切（修正期間3週間で設定）	○	○						著者→編集幹事長	
2024年8月8日(木) ～8月25日(日)	幹事長がEM補佐・主査に修正論文割り当て		○	○		○			編集幹事長→EM補佐・主査	
	主査が副査を割り当て & 主査・副査で修正内容確認および判定					○	○		主査→副査 / 主査・副査	
2024年8月25日(日)	第2回査読期限&査読結果取りまとめ期限					○	○		主査→EM補佐	
2024年8月25日(日) ～8月28日(水)	著者への第2回査読結果配信（著者の修正・提出期間は1週間以内） ※EM補佐はメール文面・宛先の確認を行う。この時点でAccept（最終原稿提出依頼）の判定であれば、チェックリストの内容も確認する。		○	○					EM補佐→著者	
2024年9月9日(月)	著者への「Accept（最終原稿提出依頼）」配信期限 ※EM補佐はチェックリストの内容とメール文面・宛先の確認を行う。		○	○		○			主査→EM補佐→著者	
2024年9月15日(日)	最終原稿締切	○							著者→校正業者	

4) Editorial Manager作業フローの確認





5) 投稿論文フォーマットの確認

土木学会論文集のフォーマットに統一されて2年目となり、昨年度ほどの混乱はないと思いますが、何のため査読時に下記の点に注意してください。

(1) 参考文献の記載方法

REFERENCESの文献は英語表記とし、和文の場合は [] 内に英文を併記します。

正式な英語タイトルがないものの表記方法は**著者責任**としており、独自に英訳しても、ローマ字表記としても、受け付けています(土木学会に確認済)。

参考) 土木学会論文集投稿要領 <https://committees.jsce.or.jp/jjsce/node/71>

(2) ページ数制限の変更

REFERENCESの英文併記に伴い、**和文論文のページ数上限**を昨年度までの6ページから**7ページに変更**しました。7ページ数行しかない原稿でも「可」となります。

英文論文の上限は6ページです。

その他

(3) 文字の大きさや日本語表現の指摘に関して

昨年度、著者から査読に関して、

①図表中の文字の大きさが小さすぎる

②本質的ではない部分で日本語表現の修正を要求される

といった意見が執行部に届きました。

①については、土木学会論文集投稿要領にて、フォントサイズの指定はありませんが、「図を作成する際には、仕上がりを考えて線の太さや文字の大きさを考えること。文字は、仕上がりで1.5～2mmとなるのが標準で、また、記号類は小さすぎないように少し大きめに描くようにすること」と記載されていますので、これを踏まえてご指摘ください。

②については、誤解を招く表現であれば修正を要求した方が良いと思いますが、意味が通じるレベルであれば著者責任で判断させてください。

6) 2023年度J-Stage掲載論文の訂正再発行について

2024/04/26 土木学会論文集編集調整会議

土木学会論文集編集委員会 委員長 中野正樹先生

幹事 各位

編集小委員会（通常号）委員長 各位

編集小委員会（特集号）委員長 各位

特集号（水工学）委員長 泉 典洋

編集幹事長 小田 僚子

土木学会論文集特集号（水工学），Vol.80，No.16 論文訂正再発行のお詫び

2024年2月にJ-Stageに公開した「土木学会論文集特集号（水工学），Vol.80，No.16」の論文1編について、古いバージョンを掲載してしまったために当該論文を取り下げ、正しいバージョンを再掲載いたしました。元記事PDF原稿のトップページに、次ページに示す告知記事を掲載しています。

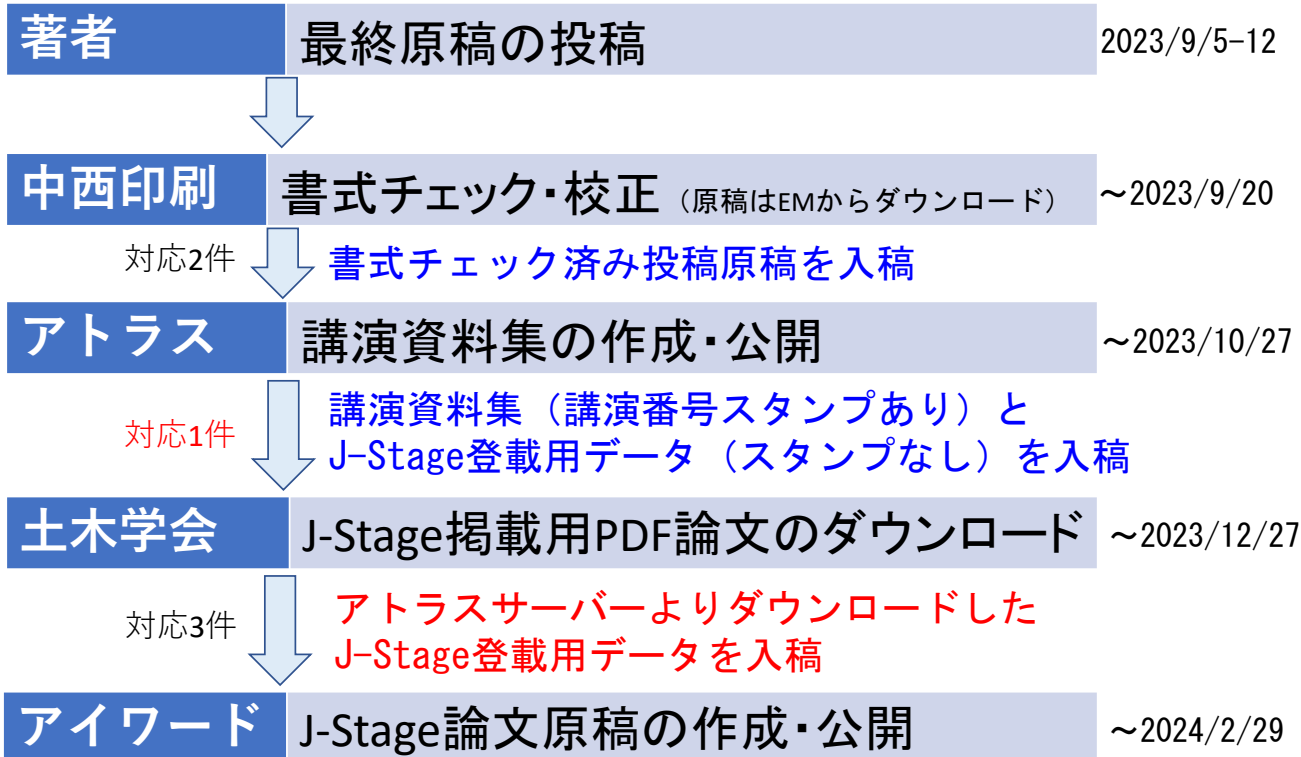
土木学会論文集におけるエラーを防ぐべく、編集調整会議にて様々な議論がされてきた中で、より深刻な事態を招いてしまったこと、そして著者の皆様に多大なご迷惑をおかけしてしまったことを心からお詫び申し上げます。また、土木学会論文集編集委員会・幹事会にて早急にご審議いただき、2週間後には正しいバージョンの論文公開に至ったことに心から御礼申し上げます。

水工学特集号編集小委員会では、今後編集方針を見直し、再発防止に取り組んで参ります。

以上

当該論文は、講演資料集公開直前に「誤って査読前の論文を最終原稿として提出してしまった」との連絡があり、アトラス様の手元にある段階で急遽差し替え対応を行った論文です。講演資料集には最終原稿が掲載されています。

今回はアトラス様のサーバーよりダウンロードした入稿データに古いバージョンの論文が入っており、編集小委員会では講演資料集に掲載の論文と同じものが入稿されていると思い込み、そのままアイワード様に入稿してしまいました。



2024年水工学講演会（富山）

■ 開催日時：2024年12月2日（月）～4日（水）

■ 会場：富山県民会館（JR富山駅より徒歩15分）

■ 部屋の配置

・第1会場：ホール（1,105名） ←ホールをフル利用

・第2会場：304（144名）

・第3会場：401（153名）

・第4会場：611（90名）

・第5会場：701（81名）

・受付・企業展示：301（60名） ・その他：事務局休憩部屋、部会用5部屋（中日の昼）

■ 予算規模（会場・備品使用料）：182万円

■ 懇親会：近隣施設 and 富山県民会館を仮予約（高い・・・ 一般：7,000円、学生：4,500円）

■ 特別講演：人選中

■ 補助金の申請を開始：（県：42万円、市：45万円[3日間、300～399人]）

補助金申請で
皆様をお願い

開催1か月前以上の早期参加登録をお願いする可能性

（1か月前までの申請時に参加者名簿が必要なため

発表者リスト＋後日の名簿でOKか交渉予定）



富山県民会館

“にぎわいの創出拠点”
“文化振興の中核拠点”となる
「富山の顔」としての魅力があふれる

『水工学若手研究会（仮称）』について

水工学委員会の4部会をまたいで、若手研究者が集まり、互いの研究成果を紹介して交流する機会を設ける。きっかけとして、水工学講演会の前日（2024年度は12月1日（日））に、若手研究者（概ね35歳以下、学生含む）の研究会と懇親会開催を企画する。

水工学委員会執行部と4部会長による案の概略は以下の通りであるが、若手研究者の自主的な活動になることを期待するため、もちろんそれに限らない。

- ・水工学講演会の発表内容をそのまま発表する。（そうすることで、この研究会のために別途準備する必要はなくなるし、発表の練習にもなる。講演会とは別の内容も歓迎する）
- ・参加者は若手のみで、中堅・シニアは参加しない。
- ・講演会の中では質問しにくいような基礎的なことでも自由に質問する。
- ・お互いに **Encourage** することを基調とし、カジュアルな雰囲気楽しく知見を深める。
- ・（2024年度の）会場は、執行部と現地実行員会（富山大学）が調整して確保する。

■ 取りまとめ役（各部会から2名）

○ 河川部会

五十嵐 善哉先生（埼玉大学大学院理工学研究科 助教）

yigarashi@mail.saitama-u.ac.jp

大中 臨先生（山口大学大学院創成科学研究科（工学系学域）助教（特命））

onaka-n@yamaguchi-u.ac.jp

○ 環境水理部会

河野 誉仁先生（鳥取大学助教）

tkono@tottori-u.ac.jp

福丸 大智様（山口大学大学院博士後期課程2年）

d004wdu@yamaguchi-u.ac.jp

○ 基礎水理部会

松本 知将様（京都大学大学院 工学研究科博士後期課程3年）

matsumoto.kazumasa.85s@st.kyoto-u.ac.jp

佐藤 柳言先生（日本大学理工学部土木工学科助手）

satou.ryugen@nihon-u.ac.jp

○ 水文部会

武藤 裕花先生（千葉大学特定助教）

yukamoto@chiba-u.jp

岡地 寛季先生（北海道大学助教）

hiroki-okachi@eis.hokudai.ac.jp

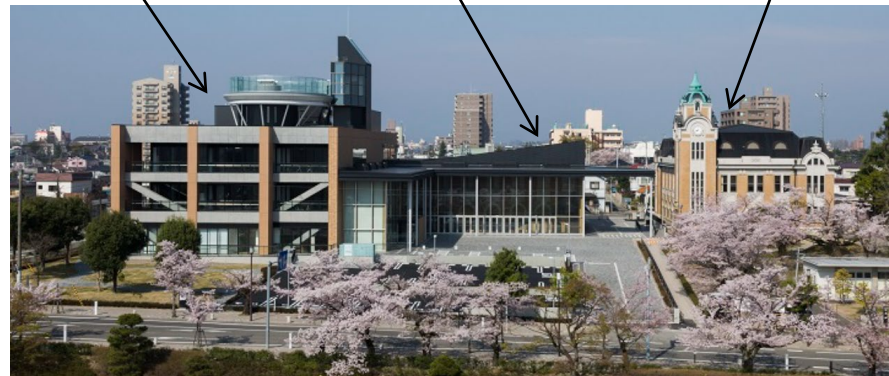
□ 取りまとめ役の初会合（5/28）で出された意見

- ・負担にならないように水工の発表ベースに、
- ・学生のゼミ（ざっくばらんに）裏話を含めて
- ・学部生がいれば、研究室の生活なども含めて発表
- ・グループごとに分かれて討議
- ・普段着で参加
- ・留学生も **Involve** する形で

2025年水工学講演会(福島)

郡山市立中央公民館
(勤労青少年ホーム)

郡山市郡山公会堂
[国の有形文化財]



■ 開催日時(案)

2025年12月上旬

(各種スケジュール勘案して決定予定)

■ 会場

郡山市立中央公民館/郡山市郡山公会堂

(福島県郡山市麓山1-8-4 郡山駅徒歩約20分, 郡山駅11番-郡山中央図書館より徒歩3分)

■ 予算規模(全館貸し切り)

50~60万円

(1日あたり90,700×4日間(前後半日含む))

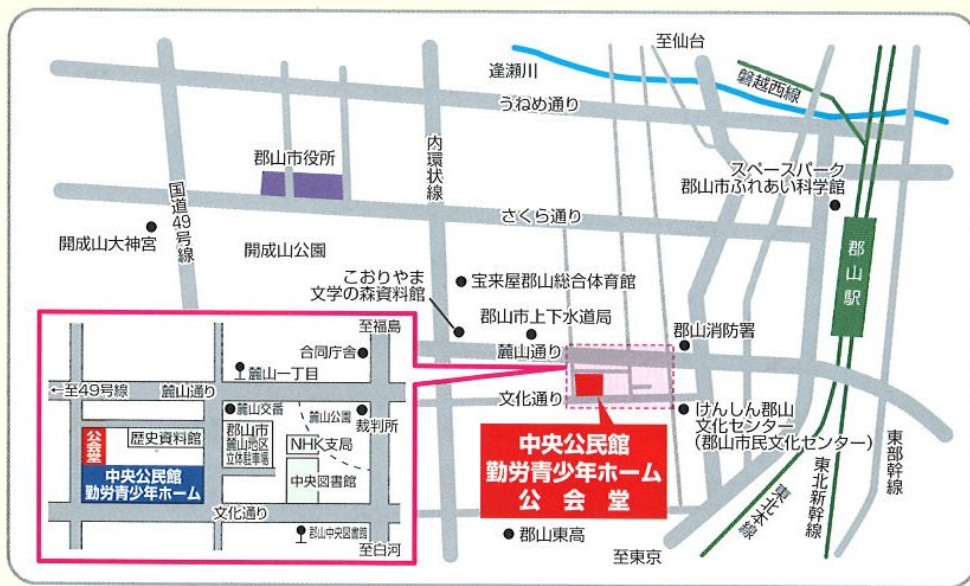
(その他の雑費20~30万円程度)

■ 講演会会場のみ

許容収容人数

1,106人/日(休憩室など別途)

※郡山中央図書館 視聴覚ホール
(244人も利用可)

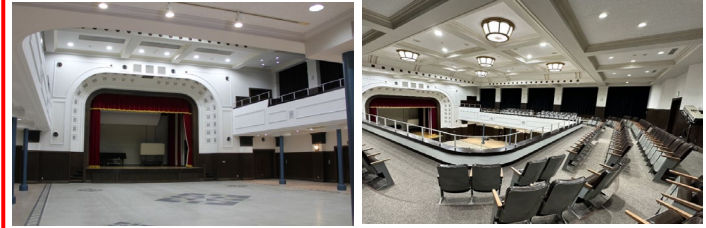


部屋配置

多目的ホール：500人



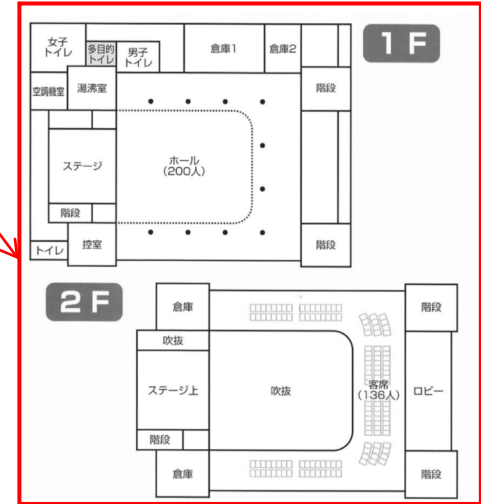
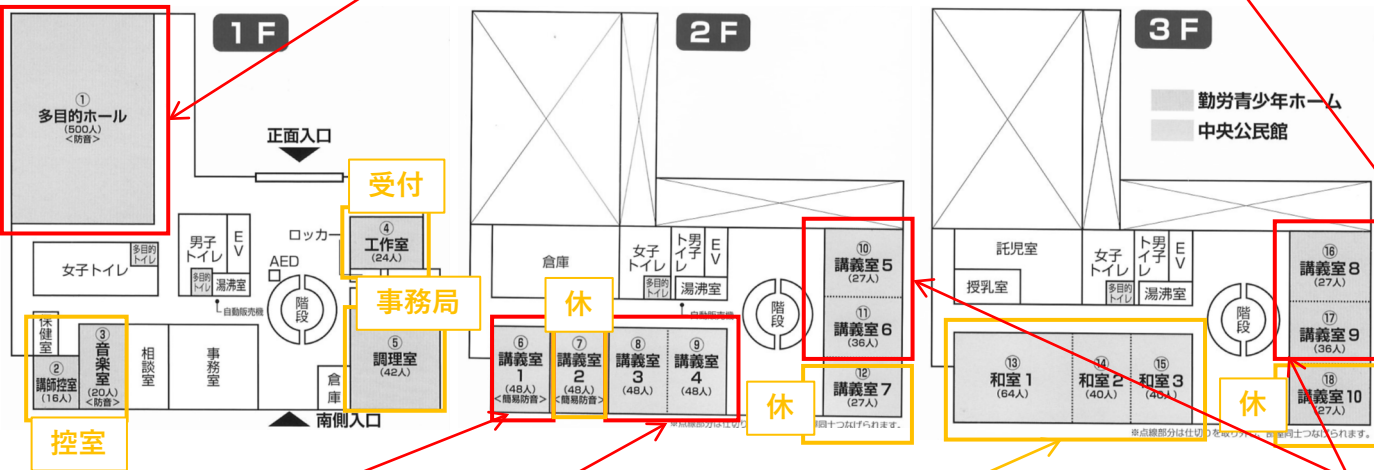
公会堂ホール：336人



郡山フィルムコミッションより

【郡山市中央公民館】

【郡山市郡山公会堂】



懇親会
公会堂利用 もしくは 近隣施設

■ その他

コンベンション・エクスカージョン補助

■ 現行の暫定体制

実行委員長：梅田信(日本大学)

幹事長：川越清樹(福島大学)



2025年水工学に関する夏期研修会（案）

開催方法：ハイブリッド（会場（福岡市内予定）＋録画によるオンデマンド）

時期：例年同様（8月末頃）、2日間

全体テーマ：水工学におけるパラダイムシフト

担当：渡部(主担当)、丸谷、矢野

A・B共通の講義案

- ✓ 水工学におけるパラダイムシフトに関する講義（提言などを基に？）
- ✓ 流域治水に関する講義（行政などの講師）

Aコース：（河川・水文）における講義案

- ✓ 河川や水文に関する気候変動予測情報の概要とその活用方法
- ✓ 機械学習（AI）・データ同化などの情報学の知見の活用方法
- ✓ 大規模アンサンブル時代の（極値）統計手法
- ✓ その他の技術や話題
 - ✓ 水温
 - ✓ 環境DNA
 - ✓ マイクロプラスチック
 - ✓ 生物多様性
 - ✓ 人口減少

4th JSCE-CCES Joint Smpodsium of Civil Eng

九大：矢野

開催方法：対面（会場：中国 **南京**市内ホテル（Hohai Univ.近く）

日程：**10月9日～12日**（会議は10, 11日の予定）

※**APD-IAHR(10/14-17)の前週**

- ✓ 土木学会と中国土木学会によるイベント：土木学会本部の肝いりです！！
- ✓ 2年に1回. 第3回と第4回は第二部門（水工と海岸）が担当
- ✓ 今回は，枠を広げ複合構造委員会、トンネル委員会にも声かけ
- ✓ アブストラクトのみ
- ✓ 若手研究者（<30歳）に10万円の補助を予定. 海岸と水工で5名ずつ程度

スケジュール

8月頃：Deadline of Abstract Submission（予定）

10.9: Registration.

10.10: Day one of meeting and presentation

10.11: Day two of meeting and presentation, mini tour of laboratory

10.12: Technic Tour

委員会名:		水工学委員会		
予算執行期間:		2023年4月1日	～	2024年3月31日
				2024/3/31
調査研究費予算	881,000			
調査研究拡充支援金	2,338,000			
予算総額計	3,219,000			
支出総額	3,182,039			
差引残額	¥ 36,961			
2023年度行事の残高(黒字分)				
水工学講演会	1,236,612			
夏期研修会	18,957			
河川シンポ	1,880,370			
合計	3,135,939			

												R5/6/1現在
		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	備考
収入	調査研究費	¥1,127,000	¥680,000	¥1,056,000	¥1,038,000	¥953,000	¥986,000	¥934,000	¥951,000	¥881,000	¥858,000	
	拡充支援金	¥1,981,000	¥1,612,000	¥1,372,000	¥3,570,000	¥4,178,000	¥3,305,000	¥5,867,000	¥4,125,000	¥2,338,000	¥3,135,939	見込み額
	合計	¥3,108,000	¥2,292,000	¥2,428,000	¥4,608,000	¥5,131,000	¥4,291,000	¥6,801,000	¥5,076,000	¥3,219,000	¥3,993,939	見込み額
支出	水シンポ	旅費	¥289,440	¥448,656	¥1,001,586	¥435,654	¥314,757	¥0	¥81,509	¥350,429	¥248,508	
		他	¥200,000	¥200,000	¥200,000	¥200,000	¥823,868	¥0	¥500,000	¥533,411	¥557,074	
	親委員会 &編集小	旅費	¥2,428,595	¥1,328,050	¥819,340	¥954,045	¥1,670,761	¥0	¥394,378	¥12,780	¥332,750	
		他	¥64,120	¥265,754	¥112,384	¥625,517	¥604,244	¥0	¥2,693,680	¥456,696	¥227,015	
	部会・小 委員会	旅費			¥189,842	¥402,396	¥439,237	¥0	¥57,960	¥570,180	¥270,877	
		他	¥46,656	¥18,360			¥293,184	¥0	¥278,300	¥2,094,316	¥1,495,700	
	その他		¥63,982	¥26,303	¥98,788	¥0	¥0	¥139,009	¥281,316	¥100,231	¥50,115	
合計		¥3,092,793	¥2,287,123	¥2,421,940	¥2,617,612	¥4,146,051	¥139,009	¥4,287,143	¥4,118,043	¥3,182,039		
										残高	¥36,961	

水工学講演会収支まとめ													
		2021				2022				2023			
会計科目	項目	金額	単価	数量	備考	金額	単価	数量	備考	金額	単価	数量	備考
事業収益	1 一般・学生 参加費 ⑤	0				0				0			
	2 参加費 ⑤	0				0				0			
	3 当日分 テキスト代 ⑤	492,000	6,000	82		522,000	6,000	88		522,000	6,000	87	
	4 事前分 テキスト代 ⑤												
	5 テキストに付き寄書負担金	8,855,000	35,000	253		7,455,000	35,000	213	概算	8,820,000	45,000	196	登壇料(10,000を含む)
	6 広告(業界案内)・スポンサー収収	600,600	54,600	11	8/27現在の申込数	787,800			(78000円×13件×0.7)+(78000円×1件)(Nortekジャパン)	600,600	54,600	11	
	7 その他収入 a (企業製品展示)	0			企業展示なし					100,000	50,000	2	
	8 その他収入 b									40,000	10,000	4	通常号登壇料(3件×10,000)+訂正誌掲載料(1)
	事業収益合計A	9,947,600				8,770,800				10,082,600			
寄付金等	9 寄付金等	0								0			
	寄付金等合計B	0				0				0			
	収入合計	9,947,600				8,770,800				10,082,600			
会計科目	項目	金額	単価	数量	備考	金額	単価	数量	備考	金額	単価	数量	備考
臨時雇入給	1 アルバイト代	458,000				499,000			備考*	423,620			
	2 講師・司会者への旅費					42,840			11/17、11/22～11/28アルバイト代				
旅費交通費	3 会場旅費・職員旅費					204,778			特別講演講師旅費	51,920			
	4 発行用文房具・会場看板など					16,486			備品購入費(各割、含み入れ)	60,963			
備品消耗品費	5 DM誌代等の通信費・運搬費など	5,540				159,876			一昨年と一緒	3,884			
	6 各種手数料(振込手数料等)など								昨年と一緒				
手数料	7 会場使用料					455,770				1,531,000			
	8 付属備品使用料												
	9 その他賃借料					169,400				2,400			
会議費	10 講師・司会・委員等の打合せ会議					242,197				126,991			非当代
広報宣伝費	11 ポスター作成費												
報告書等製作費	12 テキスト発行費												
	13 テキスト買上費												
図書等仕入費	14 テキスト以外の教材費												
	15 講師・司会者への謝礼金					19,489							
謝金・賞金	16 その他												
	17 設備システム等使用料(EM)	273,900				1,379,400			設備及び画談システム	1,749,165	4,200	260	昨年株286件の設備、年間保守料120,000円
システム利用費	18 その他支出 a. (J-STAGE対応)	1,793,825				812,130			J-Stage掲載手数料	747,615			J-Stage掲載料(197件)
	19 その他支出 b. (CONFIT)	978,725				1,034,288			アトミス 大会サイト作成・運営費	627,000			
	20 その他支出 c. (印刷費)					45,320			大塚 賞状製作対応(論文賞、奨励賞の賞状とメ)	1,870			ピアスクリーニング代
	21 その他支出 d. (印刷費)					486,640			校正作業中西印刷	455,180			校正作業中西印刷
	22 その他支出 e. (印刷費)	38,940							小計	39,600			大塚 賞状製作対応
	23 その他支出 f. (論文チェック)	653,070			中西出版					3,757,778			
	24 その他支出 g. ()												
	25 予備費												
オンライン関係	26 ()												
	支出合計	4,202,000				5,561,614				5,821,208			
	管理費相当額A	2,984,280				2,631,240				3,024,780			
	管理費相当額B	0				0				0			
	収支差額	2,761,320				577,946				1,236,612			